

桜川

土浦の自然を守る会

No.10



人と流れと 考え方と感じ方と 蟻の列	飛田君枝 岩崎孝志 辻葉子	2 3 5
--------------------------	---------------------	-------------

特集 A 土 V

土臭さ 土が減れば国も亡びる 教室の片すみで グループディスカッション……消費者と生産者の接点をもとめて	乾修平 渡辺正信 須田直之	6 8 10 12
---	---------------------	--------------------

主婦の立場から土を考えよう

桜川とその附近の史跡を探る (第九回)

学校と自然環境

筑波山、霞ヶ浦鳥類目録・野鳥のカレンダー他

プランクトン

琵琶湖訴訟と霞ヶ浦

わかるかなあ……わからないだろうなあ

会員自己紹介

土浦の自然を守る会経過報告

自然とは何か

編集後記

佐賀純一	60
奥井登美子	54
中沢玲子	51
佐賀純一	44
奥井登美子	42
中沢玲子	37
佐賀純一	34
望月和男	29
栗栖恵子	25
永山正子	23
奥井登美子	22
須田直之	10
渡辺正信	8
乾修平	6
辻葉子	5
岩崎孝志	3
飛田君枝	2

人と流れと

飛田君枝

たえず流れていくものの中にいて
わたしはいつも悲しみを
拾ってくる

手ずから餌をあたえた
雛鳥も育ってしまえば
一枚の羽毛も残さずにとび去っていく

訣別をいさぎよく受け入れることで
人は
意志の偉大さを確かめようとするが

少しでも他の人より幸福に

なろうとするから

世の中はふしあわせばかりふえていく

水の運命は
すべてを落かしてしまふことで

きれいにするつもりが
汚れていく

あかいオブラートにつつんだ薬で
わたしたちは少しのやすらぎを
もつことができるが
その量を多くしただけで
休息が永遠のものになると知ったら

わたしの知性は
恐怖のあけた奈落を
すいこまれるように感じるだろう

腐った真水を
薬で浄化しながら
人は

限りないふしあわせを飲んでいる

たえず減っていくものの中にいて
わたしはいつ
苦しみに陥むことができるだろう

考え方と感じ方と

岩 崎 孝 志

自然の事物を好きになるということは、多分に情緒的な世界である。しかし、自然現象の美しさ、精妙さに感嘆したり執着したりすることは、やがてそれが私たちを自然の構造や本質の解明へと導くだけでなく、無計画な自然破壊や汚染に批判の目を向けさせることにもなるにちがいない。

自然を愛するといつても、例えば生き物を独占的な愛玩の対象にすることなどが生命尊重に通じるわけではない。むしろ、生命現象の正確な理解によつて生命の尊厳感もたらされる例のほうが多いことだろう。科学が自然の神秘を奪い、人間の感性をそこなうという考え方に十分な根拠はない。ただ私たちが警戒しなければならぬのは、科学が論理的に整合な知識体系であつて、数理的あつかいだけがそれを保証するという考え方に過度にとらわれることである。注意しないと、客観的であろうとしながら、かえつて私たちの思考の幅をせまくすることになる。

環境問題に即して言えば、例えば環境を定量化してとらえようとする場合の陥穽である。環境とは私たちにとつて、本来主観的・定性的なものであるから、騒音が、 $\times \times$ ホンであるとか、ベンツビレンの汚染度が $\times \times$ P P Mとかいう数値により客観性に近づくよういて、情報の受け手の感性から離れた定量化は、はなはだ主観的なものとなることだろう。

本多勝一氏の『戦争を起こされる側の論理』に次のようなところがある。

「地球の自転があと五〇分の一周ほど進行するころ、東経一三九度四五分・北緯三五度四〇分付近で、地下

一〇〇キロ付近の上部マントルに、ひずみの限界を越えた破壊運動による弾性波が起こり、その運動エネルギーの観測値は八・六程度と予想される」というようなことを仮りに私たちが知らされたとしても、大部分の入は、「それがどうした？」とけげんな顔をするだけで、地図をひろげてそこが東京であり、そしてそれが三〇分後に大地震が起こることだと知るものは限られてしまうだろう。しかし、「あと三〇分たないうちに、関東大震災以上の大地震が東京に起こる」と東京都内の人が開けば小学生でもすぐに避難にかかるはずである。同じ現象でも、表現が抽象的だったり、むずかしかったりすれば、

私たちは生命にかかわることでも平気で聞きながしてしまふ。そこを本多氏は、これが地震のような自然現象でなく、例えば原爆が落とされるとか、戦争が起こされるとかの人災であれば、なんとか早くそれを防がなければならぬ、そのためには私たちがいつも話している私たちの言葉でそういう人災の原因をえぐり出し、みんなの前にさらけ出す必要がある。と主張する。

環境問題は、この人災の代表的なものである。そしてここでの「私たちの言葉」というものは、たんに言葉のわかりやすさの問題でなく、私たちの日常的な「ものの感じ方」と深く関係する部分を含んでいる。

私たちの行動は、総合的直観力ともいえるべき感性によっていることが多い。そして「直観的」とか、「感覚的」ということは、これまで「非科学」の代名詞のようなものであった。しかし、現代の多くの課題がそうであるが、取り扱いの厄介な複雑な事象を対象とするときにあらわれてきたのは、対象を要素に分解し、要素ごとに性質を細かく詮索したこれまでの科学の方法への疑問である。

そして、科学が部分の完全な理解を介さずに対象全体の性質をつかもうとする方向に変わってきた——変らざるを得なくなってきたいま、自分の「感じ方」に忠実であることが、少なくとも出発点としてきわめて重要なもの

となつてゐる。つまり、たんなる分析操作や要素への還元にとどまらず、「磨かれた感性」によつて生き生きとした直感をとりもどすことが、いまでは「科学的」であることの出発点となつた、ということである。

「磨かれた感性」といま書いた。私たちが理論や思想をより深く身につけたものとするためにも、実践を有効なものとするためにも、鈍麻し情性化している私たちの感性を磨いて生き生きとしたものにするのが求められるだろう。しかし、私たちにとつて、「考え方」を変へることにより「感じ方」を変へることは、はるかにむずかしいことではある。だからといつて放置するなら、人間の「自由」も「主体性」も私たちが獲得することはないだろう。

(科学史研究家)

○子どもの本の勉強会

毎月第三土曜、午前中 図書館児童室 講師岩崎孝志さん。子どもの本に関心のある方はどしどし参加して下さい。

問合せは桜町上原(電・二二一五二八二)

蟻の列

辻

葉子

愁いてばかりいても

煌くようにはならない。

かつてレモンの汁のように

鋭く昼と夜とを分け

こころの象を映していた空は

鉛色の煤煙の浸むまま

無気力に垂れさがっている。

嘆いてばかりいても

透明にはならない。

かつて真珠殻のように

まろやかな彩りで

こころの傷を包んでくれた湖は

粘泥の淵の中に沈んで

頑なにおしだまっている。

叫びはどこまで届くのだろうか

両腕をせいいっぱい抜け

思ふことが出来るのだろうか
刻々と壁ちてゆく生まれたまゝの世界。
さあ

降りしきる塵埃を促え

嗜み、喰み、こなし

洗い、飾い、さらし

かつての空と湖が

この手にしっかりと戻ってくる日まで

蟻の列のように

続いて、続いて

果しなく大きな輪を

幾重にも幾層にも作り続けよう。

四月末、背椎の手術を受けて、数週間、ギブスベッド
の中で、身動きならなくなつた。おかげで、外に目を向
ける暇が、いやというほど手に入つた。

広く開け放つた窓から、空と湖が見える。遠く出島が
墨絵のように横に延び、その手前にやはり灰色がかつた
霞ヶ浦が、それでも日によつては、チカチカと光つて見
える。空は上半分が薄青、下半分は白濁し、時折列車が
視界を横切つて過ぎる。緑は思つたより少ない。ポプラ
の一群がちよつとしたアクセントになつている位で、湖

畔の一部は整地され、分譲される運命にあるらしい。あたり、子供の頃、葦を分けて舟をくり出し、菱の実を取りに飛び込み、泳ぎまわった所である。すべてがなつかしい回顧の材料となっているだけで、もう小さな河童どもの歓声も水しぶきも聞こえはしまい。肌の染まるような青を見せてくれた空も無い。

だが、こうして閑居し、眺めているぶんには、五月のうらうらした陽の下で、空も湖も街も、眠っているように、おだやかな表情を見せ、平和である。この表情がくせものなのだろう。妙な安堵と虚脱感ばかりが有り、ともすれば、その裏面で刻々拡がっている病巣、進んでいる腐敗と汚染、続いている蚕蝕の力といった大切な部分を見失いがちである。

今の私は「忍」の一字の状態であるが、自然を守る運動は、それで済むものではない。ひとりひとりが輪をゆるめず、鎖を解かず、声を大にして叫び続ける必要があるだろう。

われわれ個人は、蟻のように小さくても、集合の偉力を信じたいと思う。

(土浦協同病院産婦人科長・医博)

特集「土」

土 臭 さ

乾 修 平

数年前の私の俳句に、

沈む陽へ黙れながき向日葵よ

向日葵が追いつめし陽の炎めく

という向日葵（ひまわり）をテーマにしたものがある。

その向日葵がエキゾチックな笑みを見せ、鉢の金魚が眠くてあくびばかりするようになる七月の下旬、小学校はながいながい夏休みにはいるが、少年の日の私にとって夏休みの幾日かを、筑波山がぐうんと大きく見える母の実家へ泊りにゆくのが、なによりの楽しみであつた。

口うるさい両親のもとを幾日かでも離れて、のんびり遊びたいという気持もないではないが、それ以上に私は自然の織りなす田園の美しさ、つまり田舎の匂いが大好きだったからかも知れない。

野の肥満満たしに来て去る来い影

聖五月かわけば亀裂はしる畦

秋の基揚かれて糠をあます米

雲雀野の風がよこせし招待状

青田中あおき風来る男ら来る

このように、私の俳句には農業にかかわるものが多い。

これはやはり、知らず知らずにそんな土臭い生活環境に興味を持ちつつけて来たこと、現在農業行政に携わっている職業柄からして、農村に足を踏み入れる機会の多いことが影響しているのではなからうか。

音あまた炎天に据え磨滅の坂

母の実家は土浦から北へ約十キロ、筑波山にちかく、埃っぽい坂を昇りつめたところにある。

大きな森にかこまれているが、その森で少年の日の或る朝、禪りのかたちで樹肌にはりついていて、蟬殻を見つけた。それこそ新しい生命づくりのための脱皮であり、生きてゆくための一過程でもあった。

若い切株いのるかたちに蟬殻つけ

なに恋うて蟬殻置き去りの蟬よ

蟬殻に詰めて未明のあおき風

など蟬にかかわる私の俳句の幾つかは、おそらく幼き日の、そうした記憶とのかかわりあいのなかから生まれたのかも知れない。

また、母の実家の井戸のはねつるべも少年の日の私に興味を誘うもののひとつであった。

井戸の深さには、とにかくびつくりした。その深い井戸へ大きな声をおとすと、湿ったこだまとなつてすぐ私の顔へ戻ってきた。

恐らく母もこんなことを戯れに幾度も経験して来たに違いない。

そして、私や母ばかりでなく、たくさんの人達にのぞかれたこの深井戸の暗い水面。

そんなことを考えはじめたら、この井戸の底の暗さ、そして井戸水の土臭さを少年の日の私はむしろ懐しく感じたのであった。

(現代俳句協会会員・土浦俳句同好会長)

ブックリストを差し上げます。希望者は奥井まで

子どもに読ませたい本① 絵 本

子どもに読ませたい本② 創作児童文学―日本

子どもに読ませたい本③ 創作児童文学―外国

土が減べは国も亡びる

渡 辺 正 信

大地や水は生物すべての母である。人間も死して土に返るが、この大地から生産される農産物は子供である。

安心して食べられるよい農産物をつくるには、その母である土を、健康で肥沃な土にしなければならぬ。土がやせ衰え、病んでくれば、そこから生まれる農産物も、安心して食べられるものではなくなってくる。

食物の価値として最も重要なことは、安全であることである。どんなに見かけがよく、美味しくても、安心して食べられるものでなかったら、食物としての価値は半減してしまふ。

人は一日たりとも、食べずには生きていけない。その食物が安全でなかったら、国民の健康を維持できなくなる。いま、日本の農地は、やせ衰え病んできている。土は生きているので、健康で肥沃な土にしないではいけぬが、何故悪い土になったのか、よい土にするにはどうすればよいのかについて、調べてみよう。

肥沃で健康な土とは、腐植を多く含んだ土のことです。

腐植は植物の生育に必要な養分を多く含み、土の構造をよくして、根の発育をよくします。また、腐植は有益な微生物を繁殖させて、植物を害する病菌を抑える効果もあります。この腐植は絶えず分解して減少していますので、これを補給しないと、土の力はどんどん低下してしまいます。農業の基盤は大地ですので、この力が低下しては農業も減びるので、昔から堆厩肥を入れるのは当り前のこととして誰でも行なっていました。それが今では、堆厩肥を田畑に入れるのが、新聞記事になるほど珍らしくなつたのです。

この堆厩肥は、造るにも、運ぶにも、また田畑に散布するにも、大変労力がかかります。労力の少なくなつた農家では、手間を省くために、堆厩肥を入れず、化学肥料で農作物を作るようになつていくのです。それでも、始めのうちはよく育つたのですが、最近はいろいろ問題がでて来ました。堆肥を入れなくなると、土の中の腐植がなくなり、土の中の養分が減少してきます。それを化学肥料で補つても、微量養分が足りなくなり、作物の健康が損なわれ、病害虫にかかりやすい体質になつてきました。また、土の構造も悪くなり、根の発育も悪いので作物の成長が悪くなり、それをよくしようと化学肥料を多く使用するようになり、それが土を更に悪くする結果

にあり、それが病害虫の発生を多くし、農薬の大量使用につなげてきたのです。また、農薬の使用が多くなると、病害虫も抵抗力がでてきますので、新しい農薬でなければ効かなくなり、新農薬が次々に登場してきたのです。

下の表は、化学肥料と農薬使用量の国際比較ですが、日本が一番多く使われるまでになったのです。

日本一のスイカ、白菜の産地である結城郡八千代町では、堆肥を入れない栽培が十年ぐらい続いたため、土壌が悪化し、以前は化学肥料を六〇Kgぐらい使えば一級品のスイカが大量に穫れたが、いまでは一〇〇Kg以上使っても二級品しか穫れなくなっている。病害虫の発生も多くなり、以前は二、三回の農薬散布ですんだのが、今は七、八回散布している。特に土壌病害の発生が多く、白菜ネコブ病の防除は、通常ではPCNB剤の使用量が一〇アール当り二〇Kgまでであるのが六〇、八〇Kg使用しなければ、防除できないまでになっている。

水田においても、堆肥も入れず、穫ったワラを燃やすので、地力が低下し、田に生える冬草の力がないのが、それを物語っている。水田は養分を含んだ河川の水を使うので、急に生産力が落ちることはないが、このまま続ければ、いつかは米の生産も低下してきます。このことは

単位耕地面積当たり化学肥料・農薬使用量の国際比較

	肥 料		農 薬	
	Kg/10 ^a	対日本 (%)	Kg/ha	対日本 (%)
日 本	40.6	100.0	14.27	100.0
ア メ リ カ	8.2	20.2	2.51	17.6
カ ナ ダ	1.7	4.2	6.1	4.3
イ ン ド	0.8	2.0	-	-
イスラエル	12.4	30.5	157.2	110.2
イ タ リ ア	8.2	20.2	11.50	80.6
西 ド イ ツ	37.5	92.4	3.08	21.6
ス エー デン	15.5	38.4	2.16	15.1

- 注！ 1.肥料については、「肥料要覧」（1973年版）農薬については「農業白書附属統計表」（46年度）による
 2.肥料は、N, P₂O₅, K₂Oの合計で、工業用も含まれている
 3.農薬は、有効成分換算したものである

父祖の代から蓄積されていた財（腐植）を食い潰した不良息子の末路に似ています。今までの非を悟り、悔い改めて健康な土をつくる努力をしなければ、農業が滅びてしまいます。それには、農家ばかりでなく、消費者の理

解が必要です。よい土を作り、安全な農産物を生産するには、労力と経費がかかり、それだけ農産物も高くなります。ただ安いからと、外国農産物に頼っていたのでは農業は益々窮地に追いこまれ、ひいてはそれが消費者に返ってくるのです。世界的な食糧危機が訪れることが問題になっていますが、食糧危機になつて飢餓に苦しむのは、農家ではなく、消費者であることをよく考え、農家の立場を理解し、思いやりをもつて日本農業を守ることをお願いしてやみません。

(茨城県谷田部地区農業改良普及所)

教室の片すみで

須田直之

高校の生物科の教科書に「アゾトバクター」とか「クロストディウム」とかいふ名がでてくる。これらは土中に棲む細菌で、土の粒と粒の間に含まれている空気中の気体の窒素を有機の窒素化合物にすることができ、細菌たちである。だから、これらの細菌たちが多数生息している土地では、窒素化合物が土中に増加していく。その

ためには土の粒と粒との間に空気をたくさん含むように水はけをよくし、土地をふつくと耕しておいてやれば良い。しかもこれらの農業上有益な細菌は、化学会社が製造、販売する窒素肥料(化学肥料)とはちがつて、ただなのである。

これらの細菌に、地中でどんどん殖えてもらうためには、実は水はけを良くし、土地をふつくと耕すだけではだめなのだ。なぜなら、これらの細菌が、気体の窒素を窒素の化合物にするためにはエネルギーを必要とするからである。そのエネルギーをどこから手に入れるかというと、炭水化物を分解する時に生ずるエネルギーを利用するのである。ところが、これらの細菌は自分で炭水化物をつくることはできないし、土の粒自体は岩石の小さなカケラであるから炭水化物を含んでいることは殆どない。では、どのような炭水化物を利用するのだろうか。答えは簡単である。これらの細菌が利用する土中の炭水化物は、実は動植物(主として植物)の遺体なのだ。ミミズの死体や枯れた草などである。だから、これらの細菌に地中で殖えてもらうためには、枯れた草などをたくさん地中にうない込んでやる必要がある。ここに堆肥の必要性がうまれてくる。

だから、ちよつとした空地があつて、家庭菜園をつく

つたり、庭木を増えたりできる家庭では、野菜くずのよ
うなもの、できるだけ土の中へうめ込んでやるのがよ
い。私達の市民税を使つてやつている市役所のゴミ集め
も、いくらかでも助かるし、土質も良くなつて野菜や庭
木もいきいきしてくるはずである。

土中に生息している細菌は、もちろん、前にあげた、
二種類だけではない。実に多くの種類の細菌が、細菌だ
けではない、カビの仲間、つまり菌類も、原生動物も、
ミミズのような小動物も、数多く地中に棲んでいて、自
然の生態系の一員として、実にうまく自然界のバランス
を保っている。私達人間もその一員として組み込まれて
いる以上、これらの細菌などの微生物や小動物たちと、
当然無関係というわけにはいかない。なのに、私達人間
は農薬その他の実にさまざまな化学薬品を、無分別に大
量に使用することによつて、この自然界の生態系のバラ
ンスを自らくずし、のみならず人間自身の健康にさえ重
大な影響を自ら及ぼしている。

有吉佐和子さんの小説『複合汚染』の中に有機農業の
有効性についての話しがでてくる。有吉さんは小説家だ
るのに、科学的なことまで実によく調べられていて、
まったく感心させられる。土中の微生物や小動物のはた
らきを最大限に活用する方法を考えず、長期的な地力の

維持には堆肥の投入が必要と考えられるのに堆肥づくり
を殆どしないで、化学会社が生産した化学肥料や種々の
農薬を、高い代金をはらつて購入し、それで育てた作物
は高い値段になるのは当然と考えるがどうであろうか。

化学肥料だけで育てた野菜と、堆肥で育てた野菜では
全然味がちがう。化学肥料だけで育てた野菜ばかり買わ
されている都市の人たちは、野菜とはそんな味のものだ
と思ひこまされている。堆肥を使つて育てた野菜のおい
しさを知らされていない。白菜などは極端に味がちがい
堆肥で育てた白菜は、あまみがあつて実においしい。ま
ずいものを、こんなもんだと思ひ込まされて食べている
(そうするよりほかになくされている)人たちは、私も
含めて、考えてみればまことにあわれである。

霞ヶ浦の汚濁の原因の一つに畜産公害があげられてい
る。家畜の排出物を流入させて霞ヶ浦を富栄養化し、汚
濁の一因をなしているというのだが、霞ヶ浦の水を飲ん
でいる私達にとつては、まことにフン、既にたえないし、
また同時に、もつたない話だとも思う。これらの排出
物を利用して堆肥づくりをし、土に還元し、生きた土づ
くりをしたらまさに一石二鳥だと思ふのだが……。

手間ばかりかかつて、今すぐお金にもならない堆肥づ
くりに精を出し、生きた土づくりをしている農家は、実

は、農業のもつ根本的な位置をはっきりと見定め、確実につかんでいる農家と考えてよいのではなからうか。

土の問題は、要は人間の、自己の生きざまに対する根本的な姿勢の問題なのではなからうか。

(会員 土浦二高生物科教諭)

グループディスカッション

消費者と生産者の接点を求めて

△きつかけ▽去る二月末に放送されたNHK「奥さんごいっしょに」の「農家の主婦にきく」という番組の中に消費者側として参加した数名の主婦の中から、誰いうともなく、「こういう大事な問題は、番組をタタキ台にして、地域の中で農家の人もまじえて、互のザックバランをホンを話しあつてこそ意味があるのではないか」という声がありました。

たまたま、土浦の自然を守る会の会合の席で、その話をしたところ、自然を守る会としても水の問題と共に、

土の問題も考えてみたいところであり、無農薬無化学肥料の作物を契約栽培して下さっている柴原さんもさつて、みんなでできるだけ参加しようということになりました。

ときは二月十三日、場所はいいだしつべの一人でもある田谷医師のお世話で協同病院会議室をお借りし、病院健康管理課の職員、柴原さん、桜村で朝市を続けている豊島さんのグループ、若い農業後継者の集りである独農会、NHK関係者など、立場のちがう人達が集つたわりには、かなり活発な意見も出て、今まで 近くに住んでいながら互いに互いのことを知らなすぎたのではないかという反省も生まれた次第です。また、マスコミで投げかけた球を、このような形で、地域の中で受けとめ、ミニコミ誌にとり入れ、市民運動に生かしていく一つの試みでもあつたわけです。

互に立場のちがう人が同じ土俵で話し合つてみる……という話し合いの場を、どう発展させるか、それはこれをお読み下さつた人。それぞれの決意次第だと思います。

出席者(○印は土浦の自然を守る会会員)

消費者 島 美佐子(桜村主婦) 土屋正子(桜村主婦)

酒井慶子(桜村主婦) ○中沢玲子(土浦主婦)

○長南美代(土浦主婦) ○高木純子(土浦主婦)

○横山徳子（土浦主婦） ○平賀八子（土浦主婦）
○真山淑江（土浦主婦） 岩崎博子（土浦主婦）
○佐賀純一（土浦医師） ○田谷利光（新治協同
病院医師）市川 信（新治病院健康管理課）
矢口絹代（〃） 福田徳子（〃）
○奥井登美子（土浦主婦）

生産者

柴原善明（桜村農） 大塚清右衛門（桜村農）
豊島邦雄（桜村農） 豊島 功（桜村農）
桜井義男（独農会土浦） 高野博光（独農会土浦）
菅谷幸治（独農会土浦） 菅谷敏雄（独農会土浦）
ほか独農会の方九人参加
N H K 大沢芳文、川澄栄（水戸） 吉田 繁（土浦）

佐賀 柴原さんの酵素農法による無農薬野菜をわけてい
ただいているわけですが、一体損をしないんですか。

注・大根一本百円、白菜百円、キャベツ百三十円

柴原 一反歩から六トンの大根をとるのに油カスで十袋
一万六千円、その他骨粉など使います。経費はくいと
ぎるし労力も大変ですネ。ハウスなら別だけれど露地
ものとなると反別の収穫量がきまつてしまうのでむず
かしい。土浦の自然を守る会との契約栽培は価格を市
価と関係なく、こちらで決定してもらおうということ

で了解を受けています。
中沢 農薬も化学肥料も使わないで一たい農家はやって
いけるのですか。
豊島 私たちの部落七十五戸。今専業農家はたつた九戸
ですよ。農薬を使わなかつたらとてもやつていけませ
ん。

奥井 農薬全部を否定してしまうことは文明の進歩に背
を向けることになりはしないか。使い方が問題ではな
いか。

田谷 昔はあまり農薬の必要のないような野菜まで、弱
くなつてしまつて農薬を使わざるを得ないものが出来
てきている。農民自身の健康にも悪い面での影響がか
なり出て来てしまつた。文明の進歩はよいことだけど
果して収支決算がどうなるのか。

真山 農村医学が脚光を浴びるなどということは、やは
りどこかまちがつている。

土屋 消費者も悪いけれど、それにふりまわされてしま
つている生産者も悪い。私たち冬のトマトなんか食べ
たいとも思わないし、美味しくもないものを季節はず
れに食べなくてはならない現状をさびしいと思う。生
産者がしつかりして、これだけしか出来ないからお前
たちこれを食べる（笑）

桜井 消費者のレベルはこの程度なのかと思って今、ちよつとびっくりした。(笑と拍手)

部落を見ても農薬で肝臓などを悪くした人がけつこういるし、一番の被害者は生産者で、消費者もそのトバツチリを食う。よい食品を作つて市場に持つて行つても二束三文でオレのためしに漂白してない山イモをもつて行つてみたことあるんだ。そしたら、こんなもの持つてきても売れないよ。つて言われてしまった。

ハウスもの作るから悪いんだみたいな上つらだけの批評はまちがいだ。消費者と生産者は敵対はしないけれど対立はする。

土屋 対立はしても仲良くしなくては(笑)

桜井 仲良くしましょうではだめなんです。(笑)

皆……そうです。

岩崎 今日この会のキッカケとなつたNHKの番組の中

で①農民が自分で値段を決められない②農作業の六割は主婦の手でという。田谷先生が農業は今やインダストリーと同じようになつてしまつたといわれたけれど農業そのものの姿がやつてしまつてゐるのでは……私たち消費者の側から見ると農業というものはもう私たちの考へてゐるものと違つたものになつてしまつてゐるのではないか。

豊島 出島と土浦。桜村と学園と、生産者も消費者も多少意識が違ふところがありはしないか。我々のお得意様の学園の奥さん方は、ゴボウなんか、向うはヒマで仕方がないからきざむくらの楽しみはさせてくれることなの(笑) 山イモも漂白したら学園の奥さん方にしかられる。

奥井 それは消費者と直接の接触のある恵まれたいい地域なのでは……。

高野 前、我々レンコンの漂白のことで土浦だけではない。東京、横浜、神田、全国各市場へやつたことがあるんです。主婦の人はよろこんでくれるけれど、市場側がよろこばないようです。

島・土屋 (思わず) ああ(笑)

高野 キウリも曲つたものをおとしていく分類がないと、もうけがちがつてくる。漂白もそういう面がある。

横山 阿見町でドロつき野菜を置いてもらうように商工会へかけあつたけれど置いてもらえなかつた。

奥井 消費者側から、洗つてないゴボウ、漂白してない山イモがほしくて実際に買えないという。

桜井 ドロつき持つていつて果して買つてくれるかタマエとホンネはちがう。

奥井 それ、そういう風に言われると、じいんと心がうずく。(笑) 私も東京生まれの東京育ち何も知らなくて桜井へ来てはじめてとれたてのトウモロコシを食べてこんなにおいしいものだつたのかと思う有様です。だから赤ん坊と同じで口に入るものは大丈夫だと思つてしまう。

菅谷 ドロつきが入れないというのは市場の都合です。キロ当りの単価が高いものは手数料がたくさん入るけれど安いものは場所もとるし、なるべく取扱いたくない。高いものを少量扱つた方が手間ヒマ省けて手数料は入るじい。ドロつきは手間がかかる。市場という組織の中に入ると生産者も消費者もないんですよ。一番いいのは、市場に消費者と生産者両方の声を反映する運営委員会みたいなものを作つて、本当の公営市場としての機能をコントロールしていくことではないですか。

田谷 今、流通機構の問題と中間マージンのことが出ましたが、バック入り野菜などもスーパーで売るためには規格化して袋に入れないといけないという点で普及したものでしょう。消費者と離れたものになつてきている。外国では生協がさかんだが、日本で生産者と直接の消費者グループが育つかどうか。

奥井 今からの消費者運動のあり方にもかかわつてくると思う。

桜井 オレ達も消費者と生産者を結びつけようというわけで色々なことをやつてみた。ひき売りもやつた。映画会もやつた。『肉の値段のしくみ』『野菜の値段のからくり』野菜はしなびてしまふし、ひき売りも容易でない。そこへ丁度市の消費生活室から朝市の要請があつたので開くことにした。しかし我々の班が産直を行行のは決して消費者向けの慈善事業ではなく、農産物の価格問題を通して本来の権利に目覚め、それを消費者に訴えながら農業問題を理解してもらふことにあり、消費者自身の団結も促すものであつた。しかし、後援となつた消費者団体の方で朝市を運営するこちらの苦勞や価格のつけ方などわかつてくれない。オレ達も大の男が何人もて半日も売り子をやるわけにもいかないんだ。そこで朝市から手を引くことにした。

菅谷 最初の一、二回だけだよなあ採算とれたのは、あとは義理。

桜井 『ネギの白いところはいけれど青いところはいらない』『こういう野菜ならどこでも売つてゐるわざわざこんな所に来なくてもよい』……ですからね。消費者側の「よいものを食べたい」という意識と運動あ

つてこそタイアップ出来る問題で、そういうものの全然ないところでは育たないのではないか。

市場は着色しようが害があるうが見かけだけよければかまわないし、ルートも部分的。結局今はわかつてくれる消費者との契約栽培しか、こういった方向でなければ実現しないのではないか。

土屋 私たちの桜村の朝市は三十分。中には八百屋さんより高いなどという人もいるけれど、根気よく続けているうちによさがわかつたみたい。

奥井 私も独農会の朝市には関心があつたから何回か行つてみた。ある日トマトが売れ残つていたから『このトマト木で熟したトマトでほかのトマトと違うんだから買いなさい』つて声をかけたらバツと売れちゃつた。そこであの時『ポスターか何かでよそのトマトとどうちがうか書いておいた方がいいよ』つていつたことがあつたわね。あなた方自身にもPRが足りない点もあつたのではないですか。

桜井 プリンスメロンの最後のウラナリが出る頃、ちょうどその頃、露地のハシリが出る。いくら露地ものだといつても、ハウスのウラナリと区別つけてくれないんだ。消費者運動は有閑マダムのおあそびでは困っちゃうんだよね。

奥井 消費者運動は命の問題としてとらえていて、決して有閑マダムのおあそびではあり得ないと思うけれど

……

高木 おあそびでは決してないけれど、結局生活が苦しいからどうしても目先の値段の安さにとびついてしまふ。柴原さんの野菜をみんな分けてくれるけれど、いともかんたんに『今日は間に合っている』なんていわれちゃう。価格の問題ではないといくらいわれても、わかつていても、どうしてもやむを得ない。

奥井 家内労働的、手工業的労働の農業に対して流通機構だけが大企業なみに大きくなつてしまつていふから、家庭の主婦の手内職を大会社が受けとつていふようなもので、どっちがいいとか悪いとかいうことなしのドロヌマで、産直も距離が近い場合はなりたつけれど……むずかしいですね。

奥井 ご婦人が六〇％の労働をになつていふ労働形態の農業が巨大な流通機構に組み込まれてしまつていふ。そこに農業と流通機構のギャップが第一の段かいとしてあるのではないだろうか。

しかし、この問題、流通機構が悪いとひとことと言つてしまふと断がい絶壁で前に進めなくなつてしまふ。流通機構が悪いと言わないで、消費者は消費者なり、

生産者は生産者なり何かできることはないだろうか。
横山　みながみな流通機構が悪いとわかつていてもどうにもならない。ある本には農林省の中でも流通機構という言葉はタブーになっていると書いてありましたが本当であるかないか別にして、この問題お役人ですらそうなら、もうやつてくれないと知るべきで、それよりも消費者運動の輪をひろげていくほかないのではないのか。地域の問題として小さく動き出すほかないのではないか。

豊島　柴原さん。さっきの化学肥料使わないで消費者に直接のかたちで生活がなりたつものかどうか。

柴原　私の場合、ハウスでなく露地ものですからむずかしい。

豊島　トマト、キウリは？

柴原　やつてません。

豊島　トマトをさきほど柴原さんが言つたような方法で油かすつかうと一反歩十万円以下では出来ません。そうなると、今のトマトの値段の大体六倍くらいの値でないと売れないことになる。

佐賀　農薬使つてですか。

豊島　農薬使わなかつたらそれこそ全滅です。

田谷　昔はトマトは弱くなかつた。アカナスといつてね

どこでも出来たんです。今のトマトは弱くなつて農薬使わないと出来ないものになつてしまつてゐる。土が死んでしまつたからなのでしょね。品種が變つてしまつた。

豊島　一軒で病氣が出るとほかの人にめいわくかけるから……。

柴原　トマト、キウリは一番病原菌に弱い。着花がつゆどきで光合成が悪くなる。チッソ過剰になりやすい。病原菌はチッソにくらいつくから、チッソ過剰にもつていれない。土壌は静止体ではない。生きている。土壌微生物菌は好気性で酸素を好むから地表十cmくらいまでの所に、それこそ一グラム中何億という。堆肥を使うとマトーダを抑制する力が出てくる。

豊島　堆肥を入れて育てたものと、そうでないものと市場では同じ値でしょう。我々は社会奉仕やつているんじゃないんだ。

佐賀　柴原さんの労働時間、休日はい？

柴原　今は冬だから、朝八時〜五時。日曜、祭日はありません。

佐賀　柴原さんみたいなすばらしい人はたぶんあまりいないだろうと思う。休みがない。市場で買いたたかれる。そしてボクらみたいなちつぽげな会と契約して……

普通の人なら不安でとてもできないよ。

問題は消費者に対しては安くて、自分たちには十分な利益があつて、人間らしい生活ができて、その上土を生かしていくような農業ができるかどうか。

土屋 農民を守る消費者にならなくては……昔、私たちはミヨシ村で無農薬で作る農家に最低の保証をするために一万円ずつ出資した。消費者は都会にいても農業が安心して出来るお手伝いをする事が出来るのではないか。

佐賀 サラリーマンにそんな余裕はないし、第一農家の人もそんなやり方では納得しないだろう。今、柴原さんもタバコを吸っている。(笑) 命をちぢめたくなかつたらやめるべきですよ。人間それほど理性的な動物ではない。この建物だつてそうです暖か過ぎる。石油の浪費です。(笑)

奥井 タダで借りておいて文句をいう(笑)

佐賀 貧乏でもいい。寒くてもいい。二十一世紀のためにやるという人が一たい何人いますか。一万円出したからなんて甘すぎる。ムジユンとムジユン。欲望と欲望がぶつかりあつていて、みながきれいだとは思えないんだ。人間が生きているってことむずかしいことなんだよな。

豊島さんが柴原さんに聞きたかつたことは、一たいそれで生きていけるのかつてこと。

土屋 生きていくためには消費者も助けたらいい。

豊島 助けてもらつては何年もたないよ。

柴原 農薬を散布している人にお聞きしたい。農薬を予防的に虫がつく前にやるんじゃないですか。

豊島 ついちまつてからではおそいんだ。

柴原 その辺の考え方がわれわれとは違うんだなあ。

豊島 それじゃ生活がなりたない。

桜井 我々の仲間有機農業研究会なんかで有機農業やつてるといふ人でもよく聞いてみると自分の農業のほんの一部なんです。堆肥のいいのはわかつていけれど道路ぞいの条件のいい所なら使えるけれど全体的にやるのは不可能です。

無農薬で農業やる人の気持ちは買わなくてはなら

いし姿勢は正しいと思うよ。オレ達農業を守つてもらいたいとは思わない。でも理解してほしい。労働者の人がスト権ストをやる。あれは自分たちのためにやっているんだ。自分のことを一生懸命にないような人は相手の身にもなれないと思うよ。そういうことでオレは聖職論大きらいだ。教師自身が自分を聖職だと思つていないと同様、農民に聖職だと思えというのは

消費者は王様だと思ひのと同じことだと思ひんだ。

独農会 テレビの中で昔はよかつたという言葉出たんだけど、あれいやだな。農薬なんかの公害がなくて昔はよかつたということなんだろけど、うそです。昔はよくなかつた。農家の生活水準が低すぎたから一般に追いつこうとしてやつた結果がこれなんです。

豊島 農民の犠牲によるよき時代だつたわけです。田谷先生、我々前にパラチオンずいぶん使つたけれど我々の体内に蓄積されて出てくるのか、我々の子どもに出てくるのか、どつちなのでしょう？

田谷 パラチオンの慢性中毒正直いつてはつきりわかつていません。まして遺伝的なことはわかつていない。

しかし急性中毒はかなりはつきりしています。次の世代に影響あることはつきりしたのが水銀農薬ですね。

それからBHC、DDTなど有機塩素系のもも分解しにくい。低毒性といわれているスミチオン。これも使い方が悪いと中毒例がでています。昔、パラチオンを色が変わらなくてひもちがよくなるといつて野菜につかけて出荷した。今は低毒性ということで一部でスミチオンをかけているところがある。今、問題なのは除草剤のグラモキソンです。まちがつて飲んだら完全に死にます。しかも芳香性で飲みいい。ああいう危険

なもの、なぜ許されているか考えものです。

桜井 オレんところで、トウモロコシにスミチオンのほかにディブテックスなんか三種類まぜて混合しているんですけれど危険度は同じですか。

田谷 三種混合すれば、ききめはいいけれど、もし事故があつた場合、治療のしようがないんです。スミチオンだけなら特效薬があります。

奥井 今、田谷先生から聞きすぎてならないことをききました。出荷する前にスミチオンをかけるというのは本当ですか？

豊島 私はモラルとして一週間前から停止しています。

奥井 まわりの人はどうなのでしょう。実状は？

豊島 あるでしょうね。

(消費者一同口々に「はあ」)

豊島 人によつてはかけています。

桜井 昔、ナスなんかパラチオン使つたでしょう。今はあまりきかないネ。着色剤、漂白剤とリン酸使う。

高木 農家では自家用の野菜には使わないと聞きました

が。

真山 生産者の方だつて消費者なんですよ。

独農会 うちは売るのよりは自分のところのは農薬をひかえています。なぜひかえるのかというと、危険とか

そういうのではなくて商品にならなくてもいいからなんです。売れなくてもいい。虫がついてもかまわない。

高木 農薬を最低限に使う許容範囲を農家の人にわかってもらう必要がありますか。

豊島 そんなこといつてもトマトなんか消毒するのに天候によつて全然違うんだ。

高木 私達は農薬のなるべく少ないものを食べたい。使わなければ生活できないという農家の人との接点をどこに求めたいのでしょうか。

豊島 虫のついたトウモロコシでも平気で食べる同志を集めてくれればいいんですよ。

奥井 ムシをムシする会なんて……（笑）

豊島 農薬や化学肥料をなるべく使わないような営農方式を支持してくれる仲間を集める。奥さん達も穴のあいたキャベツ、虫のくつたトウモロコシを平気で食べる仲間を集める。それぞれ分担して仲間をひろげることですね。

独農会 いいネ。

大塚（清右衛門と名前はいかめしいが、オレンジ色のセーターを着たみるからに若々しい青年）
野菜農家の立場から言わせていただくと、我々はハウスの中でやりになった農薬を顔からかぶるわけですよ。

そしてあくる日、白くなつた葉っぱの中をゴソゴソ入つてとるわけです。キウリを食べる人とくらべものに、ならない量の農薬をあびているんですよ。

高木 生産者の健康のためにもなるべく農薬を少なくしてもらいたい。そのための限度を知りたいのです。

大塚 我々もできるだけひかえてはいます。

高木 害がなければいくらかけてもいいということではないでしょう。

豊島 消費者は消費者で、生産者は生産者で輪をひろげて守るしかないでしょう。

横山 昨年の九月に「消費者問題を考える」というNHKのシリーズ番組がありましたネ。ああいふ問題をもつともつととりあげてほしいと思います。

大沢 当然マスコミは皆さんのものでなければならなと思つています。これからも生活している人の生の声をいかして制作したいと思つています。

この間ボクが柴原さんの番組、ラジオ番組ですけれども作つたのですが、ちょうど今日みなさんの議論がぶつかっている部分の、つまり生活をかかえた中で農業をやっている豊島さんと、柴原さんとのかけあい。生活がなりたつか否かというところで議論するとつづれてしまいます。柴原さんはこれからまだ挫折の連続

です。けれども一つの芽として柴原さんみたいな考
えてやっけている生産者もいるんだということを知って
いたいただきたいし、みなでどういうふうにするかを考
え入れていくか、決して成功例としてではなくそこを
考えてもらいたくてつくったものです。

川澄 たしかにマスコミは今まで、とかく一方交通で
放送は送りっぱなしみたいなのところもありましたが、
これからは番組の中のをフィールドバックする方
法を考えています。

奥井 こういう問題は、全国的なひろがりも一方では必
要だろうけれど、やはり地域の中で話しあつてぶつ
かりあつて、そして小さな輪としてひろがつていくし
かないのではないかと思つたのです。話しあうことによ
つてこんがらがつた糸の糸口がつかめることか、つか
めないことかわからないけれど……

佐賀 二十一世紀には人口が一億三千万くらいにおそ
くなるでしょう。もちろん食糧事情はひびくして
くる。そういう中で柴原さんみたいに土を生かしなが
らやっっていく農業がエリートでなく、一般に可能なこ
とか否か、みんな考えてみたい。

田谷 私たち農民の健康を守る運動の一環として毎年検
診をやってきました。ことに有機燐製剤をたくさん使

つていふという観点からコリンエステラーゼの異常者
を調べて来たが、四十七年の二〇％、四十八年二
二％、四十九年二七％、五十年三八％と異状に高くな
つていふのが現状です。

毎年ふえて来ているというのが問題だと思います。

トキノブラスマの問題も全販連という食肉業の人を中
心にして調べてみました。二百五十の範囲で正常なの
に二千以上の人もいました。これなど子孫に影響する
問題です。

農業が一つの産業になつてしまつていふのに保証が
ないのです。せめて労災で保証してもらいたいとして
運動するつもりですが、農業はいまからますます
危険な産業になりつつあるわけです。

食糧問題を考えるとますます深刻な問題だと思いま
す。一方農薬の危険性を感じて有機農業にきりかえる
人も少しではあるが出てきますが、経営が危険に
なつてしまふ。むずかしい問題ですが、今日のように
生産者と消費者がよく話し合うことによつて、かえ
ていかなければならないのは何か、その問題の糸口が
つかめたら……と思います。

(終)

主婦の立場から土を考えよう

奥井登美子

土が死んでしまった事実を知らされたのは、五、六年前だろうか。

Sさんは八郷町で農業をやっている大人物である。なぜ大人物かというと、ほかの人がきいたらオヘソが茶をわかすような、きわめて初歩的な、突拍子もない私の質問に、いつもコンセットイネイ、タイゼンジヤクとして答えてくれる相手だからである。

「二、三日程大雨が降っただけなのに、どうして川がハランするの？」

例によつて例のごとき妙な質問に彼は平然と答えたものである。

「それは、農地がほとんど全部サバク化しているからです。保水力というものが無い。」

「えっ？ サバク？」

私の背中に、いわく、いいがたいショックがとおりぬけた。

「長い間、化学肥料ばかり使っていると、土がそりなっ

てしまつて、こんどは、なかなか、もとにもどらない」

農業者自身の彼の口から、半ばあきらめみたいな口ぶりで行われてみると、私たちは知らなかつたけれど、彼らの間では、もうこのことは常識的な話題なのだと思ひ知らされた。

その後、主婦番組のリポーターとして、五十年度の婦人部全国大会を取材した時、担当の塚越アナウンサーとこんな雑談をした。

「佐久病院の若月先生の話では、最近の農村婦人の中に農業機械によるケガなんかの事故が、とても多いんですって……」

「奥井さんは農業機械の馬力が、年ごとにあがつているという話、きいたことないですか？」

「いえ。」

「土が、それだけ、かたくなつてしまつていいるからだと思いますよ。」

背中にゾゾツと何かがはしつた。ああ、やはり、そうなのだ。

何かが起こらなければいいが……悪感のような予感におびえていた矢先、新聞で群馬県嬬恋地区のキャベツ畑が永年の連作と化学肥料のために根コブ病が発生した事実を知った。野菜の大産地がだめになつたとすると、最

産物の流通機構そのもの、土の問題を含めて、主權の私
たちも真けんに問い直さなくてはならないだろう。

虫を無視する会會員募集

今回、大根のハッパとシッポを守る会におきましては
ムシをムシする会を結成し、無農薬野菜の普及につとめ
ることになりました。キャベツの虫、菜ッ葉の虫、ムシ
パンの虫、信号無視、ムシと名のつく、あらゆるムシは
ムシやきにしてムシヤムシヤ食べてしまわないことには
ハラのムシがおさまらないという方のご入会をおすすめ
します。(奥井)

桜川とその附近の史跡を探る(第九回)

永山正

1 田土辺川原古戦場

天正元年(一五七三)四月十一日佐竹方の梶原北条、
同子息北条大五郎、真壁入道らその勢一千余騎が栗原方
面より藤沢めがけて攻め寄せてきた。これに対し小田天
なん氏治はその子守治を遣わしこの田土辺川原で之を迎
え撃つた。小田方の由良判官と十七才の若武者北条大五
郎の花々しい一騎打ちの物語りもこの田土辺の渡し付近
と考えられる。

2 北斗寺

桜村栗原にあり七宝山医王院と称し真言宗豊山派の名
刹である。寺伝によるとはじめ弘仁十二年(八二二)最
仙上人によつて創建されたと云われ天台宗に属していた。
後、小田城が築かれると城主八田知家之を小田に移し、
小田氏が滅びてから更に藤沢に移り、田土辺を経て現在
地に移つたのは万治二年(一六五九)で三百余年前とい
うわけである。本尊は最仙上人がもたらしたといわれる
妙見菩薩である。

この妙見菩薩は北斗七星を神格化したもので、古くから皇室でも北斗七星を祀る儀式があつた。旧七月七日が星祭り、商売繁昌に利益があるとかで商人の参拝が多い。又、勝負事にも御利益があるので武將の間にも信仰が厚かつた。(平 将門など) 最近では入学試験の合格祈願をする者が多いのもそのためであらう。旧七月七日の七夕には大般若が行われ小遣いに困らない、眼病にかからないといふので参拝者が多い。寺宝も多い。中でも絵画に吉野朝時代と見られる釈迦十六善神画像、鎌倉末期か吉野朝時代といわれる興教大師画像、鎌倉期といわれる黄不動画像はいづれも県文化財に指定されている。又書跡として密教関係の仏式の次第を記録した北斗寺仏儀次第(鎌倉時代) 後奈良天皇歌切も県文化財に指定されている。

3 古来の板碑

桜村古来の公民館分館の中に保存されている。六十数年前、古来地内の阿弥陀川のほとりで発見されたものを念仏講の人々が「おこや」に保存しておいたものである。板碑というのは、板石塔婆という意味で、初め遺骸を埋めた土まじりゆりの上に木の板の塔婆を建てて目印としたものが、一周忌、三周忌、七周忌、十三周忌、三十三周忌に石の板の塔婆に取り替へたのが板碑だろつとい

われている。即ち死者の追善供養碑である。今日では、青石卒塔婆と一般にいわれている。武家時代に限られた習慣で関東地方、阿波、奥羽地方に限られている。この地方では多く筑波産の雲母片岩を用いたものが普通だがこの古来の板碑は秩父青石(緑泥片岩)を用いている。高さ二一二センチもある大形のもので、文永九年(一二七二)二月八日に四人の子が父の十三回忌に追福のため建立したものである。

文永九年というと蒙古襲来の二年前で今から七百年前のものである。上半に阿弥陀三尊を下半に造立の銘が刻まれて居り、美術的価値も高い。県文化財に指定されている。次に造立の銘文をかかげる。

右志者慈父聖靈当

一十三年忌辰奉造立

文永玖年壬申二月八日 孝子敬白

八尺青石卒塔婆一本

往生極楽為法界成仏

芸術品としてだけでなく、温かい父子の情愛を感じることができる。(完)

以上九回に亘り「桜川とその附近の史跡」と題し拙文を掲載して頂いたが、この辺で筆を止めたい。長い間のご愛読を感謝します。(土浦史研究家)

学校と自然環境

栗 栖 恵 子

今日からは

姑母のつくつくくれた味噌汁の匂いで目が覚める。

今日から一中に勤務だ。学校が近くなつたら出勤時刻が早くなつた。夏時間制度をとり入れているからだ。新しい気持だ。二中学生の顔も出勤途上ちらちらする。

息子も新しいバッヂをつけ今日からは高校生、小岩田の我が家から自転車で登校だ、息子が小学生の時のランドセルをしょつて登校する姿は何回みたことがあるだろうか、ちよつと記憶にない。でも中学生になつて肩カバンをかけた姿は、クルマの中から度々見受けた。

ここしばらくは私の出勤が早いので、送り出してやることはできない。真鍋の車のこむ道をすいすいと自転車をこいで通う息子に、思いをはせる一時が生活の中に生まれた。

ふりかえってみることも……

私の住む小岩田（霞ヶ岡二十一班）には、昭和三十九年の暮に越してきた。小学校は、大岩田小学校。二人の

子供が世話になる大岩田小学校は、山ふところに置かれたお気に入りの学校だ。土浦の幼稚園に通っていた娘は「土浦小学校に入学する。」といつてだだをこね、車の通らぬ細い道を通つて向う側にある学校に不安をいだいたようだった。喜んで学校に通うようになったのは夏休みも過ぎた二学期からだつた。

片方は田んぼ、そして一段高くなっている山際の細い道を帰ってくる娘は、折々草を摘み、机の上のコップや台所のコップによくさしていた。

ところがである。この静かなたたずまいの学校の廻りが急にうるさくなつたのは、山際の道の上にブルドーザーがうねり始めた時からだ。丁度その頃、昭和四十四年十一月二十四日の朝日新聞の声欄に次のような投書を見た。

校舎は自然をこわさずに

横浜市 小南吉彦（33才会社員）

横浜市郊外にある私の家の前に丘と谷とがあつた。丘には雑木林が繁り、谷にはすすきの原が広がっていた。そこが市立中学校の建設予定地であると聞いて、私の娘もいつか通うであろう新しい中学校のたたずまいを私は夢みた。校舎は丘の上に明るい窓をならべるであろう。浅い谷はそのままだ庭になるであろう。山腹の雑木林を

子供達は上り下りして楽しむであろう事を。

教育委員会の設計で工事が始まつてからの経過は次の
しだいである。まず樹木は完全に切り払われた。野ウサ
ギとリスが逃げまどい、巢を失つた小鳥たちは空に迷つ
た。そして丘に火が放たれ、三日間燃え続けた。次にブ
ルドーザーが一月間ゴウ音をたてて走りまわり、丘は
いただきを削られ、谷は埋められ、石垣が築かれ、ここ
に真平らで、真四角な、中学校建設用地ができあがつた。
そして今、型どおりの校舎が建てられつつある。

私は悲しい思いでこの工事を見ている。そのうち子供
達に花壇をつくらせ、植樹をすすめて、それも教育であ
るというであろう。これが教育委員会の仕事であり、こ
こがその教育の場なのである。

しかし私には決してそんな教育は信じられない。この
自然を生かせない人間が、どうして子供達に宿るひとり
ひとりの自然を生かせるというのか。かえつてその自然
を切り払い、焼き、ブルドーザーで整地して、真平らで
真四角な人間に仕上げるにちがいない。教育者のご意見
をお伺いしたい。

に送った。十二月三日の新聞に記事がのつた。

学校作りに自然環境を生かせ

土浦市 来栖恵子（教員38才）

私の学校は、後ろに筑波山の雄姿を、前に霞ヶ浦の湖
面を眺める台地に建っている。この地を地元の人々が選
び、肥地を市へ提供して学校が建てられた。

中学校が整地されたグラウンドを必要とすることは周知
のことであるが、自然の条件を上手に使つてグラウンドが
できたらどんなにいいか、雑木林に囲まれたテニスコー
ト、バレーコート。校舎の窓辺にさえずる小鳥の声をき
きながら、そしてその向うに白球を追うグラウンド。

私の娘の行っている市内の小学校は自然に囲まれた落
着いた学校だったのに、ここ一年、近くに団地ができる
ため校舎のすぐそばまでできていた山がこわされ通学の一
き帰り、野道で親しんだ草木も埋もれてしまった。学校
はもとのままであるのに、なぜか学校への愛着が薄らい
できたのは私一人だろうか。

自然は校舎の廻りで最大限に生かされるべきである。

投書を追つて（その一）

（以上投書）

た。投書に書いた我が校の自然環境を眺めに来たこのお客を私は応接室に案内せずS字坂なる名前で親しまれている校庭の一部に案内した。校庭の一部よりS字にくねった坂道をおりつくとその先に校門がある。にせアカシヤ、マツが廻りに立ちならび見上げるようなならぬ大木もある。汗を流して上がって来る途中には梅の木があり春のおとずれをいち早く知らせしてくれるし、また梅の実もたのしみの一つだ。この坂を生徒達は、またとないトレーニングの場所として放課後兎飛びなどをして足腰をきたえている。

私達はこの坂の途中に陣どつて立話しをした。彼は投書してくれる人達についていろいろ語った。字を見れば一目で誰れだかわかる投書マニアの話も聞かせてくれた。彼が何を期待し、何を確かめにわざわざここにやつて来たのか不安に感じた。私は彼に更に満足を与えるため、隣りの真鍋小学校の校庭に案内した。

小学校には樹令六十年のソメイヨシノ五本がある。高さ十二メートル、幹のまわり四メートルの大木で県の天然記念物である。校庭のどまん中にあるのだから自慢しなくなる。

彼は土曜日の午後を土浦のこの隣り合っている二つの学校の校庭を歩き廻り帰っていった。

投書を述べて（その二）

四十五年の暮も過ぎ正月を迎えた。正月三日は日曜日だった。届いた朝日新聞には声欄の特集として『生かせぬか学園の自然』という大きな見出しがでていた。そしてそのページに、深い緑の木々の下を通つてS字坂で体を鍛えている土浦二中の生徒達の写真、冬空いっぱい枝を広げた真鍋小のサクラの大木の写真二枚が掲載されていた。

もちろん横浜市の小南さんの提示した問題について、横浜市の平島教育長、谷本中学校長それぞれの立場からの見解も述べられていた。

東京都に住む主婦石田さんの記事が私の目をひいた。

自然豊かなわが母校 石田 祐子（主婦30才）

私が出た山口県宇部市の中学校の話しをしたくなりました。その学校は小高い丘にあり、校門まではなだらかな坂道、その片側は小さな池でした。……（中略）……校内には山が谷があり、これがうまく利用されています。低地には二階校舎高い所には平家、そしてこれらは渡り廊下でつながっていました。

この学校の一ばんの自慢は、谷を利用したオーブンステージで、入学式も文化祭も、週一回の朝礼もそこで行

われたし、卒業式には小雪がちらつき、ムードが盛りあがりました。……(以下略)

投書を追って(その三)

一月九日、朝日新聞「声欄より」
なつかしい桜の大樹

江別市 中山福雄(教員42才)

三日付の投書特集で母校土浦市立真鍋小学校の桜が今も春毎にすばらしい花をつけている記事を読み、あの大きな樹の下で過ごした当時のさまざまな遊びをなつかしく思い出しました。

小高い丘の上の教室で、先生の話より窓辺にひらひらする桜の花びらに見入った教室の座席を今でもありありと思い出します。遊び時間には一斉にグラウンドに飛び出し、男子も女子も校庭一面に散らばった花びらを糸に通して首飾りにしたものです。それにしてもわずかな十分の休み時間でどうしてあれほど楽しく遊べたのでしょうか。

西洋陣取り、手打ちテニス、片足で相手を倒すケンケン、なわとびでは先頭になるときまつて桜の木の下をさわつてきて遠くからとび込むのが私は得意でした。冬は冬で、おしくらまんじゅう、馬とびや竹馬、手ぬぐいとリケン玉遊び、女の子ははじきや手玉、石けりな

ど、寒くても校庭に出て桜の大樹の下で遊んだものでした。

ほしいものは何でも手にはいる豊かな今日の子供に比べても遊びの豊かさでは劣らなかつたといえます。しかし、今の子どもでも創造性豊かな子どもには変りありません。遊び時間を力いっぱい楽しんでほしいものです。

学校も遊びの時間や場所をその学校に応じて大切に考えてほしいものです。

以上、五年も前の投書を書き集めてここに再度読者の目の前に書き出したのは、自然を守る会のある会員の希望であつたから……。

そして今日もまた

昨日は、土浦二中をおとすれた。生徒との離任式のたゆめだつた。S字坂をあがつていくと、バックネットの後ろに目がいっぱした。ネットの後ろに木が植えられているのだ。"あつ"と思つた。私には考えられない場所だつた。なんとステキな場所に木を植えてくれる教員がいるのだらう。こういうところに、ひむろの木五本を、植えてくれる人がいるうちは学校も安泰だと思つた。

校舎に足をふみ入れた時から過密な一日の仕事が始まる。昼休みで一息つくなんてありやしない。十二時三十分、四校時終了。給食の用意をして食べ終る頃は一時過

と、一時二十分から五校時が始まる。(この給食が昼休みに生徒が外で遊ぶという時間をうばってしまつたのだ。母親のつくる弁当の味も)そして午後より二時間。生徒が放課後校庭に開放されるのは早くて三時半過ぎである。先生方はそうはいかない、まだまだ仕事が残っている。

学校は校舎と校庭からできている。でも現在我々が校庭とよんでいるのは運動場である。ぜいたくな話だが、校庭がほしい。そしてこの校庭でゆつくり散策できる時間がほしい。でも、現在の学校生活の中ではそのどちらも無理な話である。

(土浦一中教諭 会員)

お念仏

霞ヶ浦の水質は、国が類型指定を行なう水域で昭和47年環境庁告示。達成期間は「八」(五年をこえる期間で可及的すみやかに達成)で、全域A(COD3PPM以下)と定められている。先日新聞によると、これが延びそうとのこと。

「告示とは、お念仏のことなり」……と辞書に書いておこう。(奥井)

筑波山、霞ヶ浦鳥類目録
野鳥のカレンダー他

望月和男

○筑波山の鳥類目録

コウノトリ目

サギ科 ミゾゴイ。ゴイサギ

ワシタカ目

ワシタカ科 ハチクマ。トビ。オオタカ。ノスリ

ハヤブサ科 ハヤブサ

キジ目

キジ科 コジユケイ。ヤマドリ。キジ

チドリ目

シギ科 ヤマシギ

ハト目

ハト科 キジバト

ホトトギス目

ホトトギス科 ジュウイチ。カッコウ。ツツドリ

ホトトギス

フクロウ目

フクロウ科 オオコノハズク。アオバズク。フクロウ

ヨタカ目

ヨタカ科 ヨタカ

アマツバメ目

アマツバメ

アマツバメ科 ハリオアマツバメ。アマツバメ
フツボウソウ目

カワセミ科 アカシヨウビン。カワセミ

キツツキ目

キツツキ科 アオゲラ。アカゲラ。オオアカゲラ
コゲラ

スズメ目

ヒバリ科 ヒバリ

ツバメ科 ツバメ。コシアカツバメ。イワツバメ

セキレイ科 キセキレイ。ハクセキレイ。セグロセキレイ
ビンズイ。タヒバリ

サンショウウタイ科 サンショウウタイ

ヒヨドリ科 ヒヨドリ

モズ科 モズ。アカモズ

レンジャク科 キレンジャク。ヒレンジャク

ミンサザイ科 ミンサザイ

イワヒバリ科 イワヒバリ。カヤクグリ

ヒタキ科 コマドリ。コリ。ルリビタキ。ジョウビタキ。トラツ
グミ。アカハラ。シロハラ。ツグミ。ヤブサメ。ウグイ
ス。センダイムシクイ。キクイタダキ。セツカ。キビタ
キ。オオトリ。コサメビタキ。サンコウチヨウ

エナガ科 エナガ

シジュウカラ科 シジュウカラ。ヤマガラ。シジュウカラ
ゴジュウカラ科 シジュウカラ。メジロ科 メジロ

ホオジロ科 ホオジロ。カシラダカ。アオジ。クロジ
アトリ科 アトリ。オウラビ。マヒワ。ハギマンコ。イスカ

ベニマシコ。ウソ。イカル。シメ

ハタオリドリ科 スズメ

ムクドリ科 コムクドリ。ムクドリ

カラス科 カケス。オナガ。ハシブトガラス。ハシボソガラス
(以上九十一種類)

◇ 筑波山鳥類の生息調査

○ 地 区 筑波山頂御幸原〜湯袋峠

○ 距離・面積 三Km×五〇m 一五〇〇〇m²

○ 年月日時 昭和50年8月5日10時〜14時40分

種 名	個体数	No. / 1 Km	No. / 1ha	優占度%
ウグイス	26	8.67	1.73	22.5
ホオロドリ	21	7.00	1.40	17.8
ヒヨドリ	19	6.33	1.27	16.1
スズメ	15	5.00	1.00	12.7
シジュウカラ	7	2.33	0.47	5.9
エナガ	6	2.00	0.40	5.1
ハシブトガラス	4	1.33	0.27	3.4
コジュケイ	3	1.00	0.20	2.5
ホトギス	3	1.00	0.20	2.5
メジロ	3	1.00	0.20	2.5
ハシボソガラス	2	0.67	0.13	1.7
サシバ	2	0.67	0.13	1.7
センドイムシクイ	1	0.33	0.07	0.8
ノスリ	1	0.33	0.07	0.8
モズ	1	0.33	0.07	0.8
カケス	1	0.33	0.07	0.8
キセキレイ	1	0.33	0.07	0.8
サンコウチヨウ	1	0.33	0.07	0.8
オオトリ	1	0.33	0.07	0.8

調査の結果について
1. ウグイスは全域に多く、最優占しており、これに託卵するホトトギスの多いことも特徴となつている。ウグイスのさえずりにはかなりの変化がみられホトトギスそつくりの声でなくグループも認められた。

2. ホオジロは中腹以下に多い。

3. スズメ、コジュケイが山頂まで達し、数もかなりふえている。

4. 狩猟鳥となつているキジ、ヤマドリ、キジバトなどが全く出ないのはこの地域が狩猟地となつている影響と考えられる。

5. ノスリ、サシバなどワシタカ科が比較的多いのは、本山の環境がかなりよい状況になつているとも思える。

霞ヶ浦の鳥類目録

アビ目

カイツブリ科 カイツブリ。アカエリカイツブリ。カンムリカイ

ツブリ

ペリカン目

ウ科 ウミウ。カワウ

コウノトリ目

サギ科

サンカノゴイ。ヨシゴイ。オオヨシゴイ。ゴイサギ。ササ
ゴイ。アマサギ。ダイサギ。チュウサギ。コサギ。アオサギ

ガンカモ目

マガン。ヒシクイ。オオハクチョウ。コハクチョウ
オシドリ。マガモ。カルガモ。コガモ。トモエガモ
ヨシガモ。オカヨシガモ。ヒドリガモ。オナガガモ
シマアジ。ハンビロガモ。ホシハジロ。キンクロハ
ジロ。ホホジロガモ。ミコアイサ。ウミアイサ。
カワアイサ

ワシタカ目

ワシタカ科

ミサゴ。トビ。ハイタカ。オオタカ。ノスリ。チュ
ウヒ。ハイイロチュウヒ。

ハヤブサ科

ハヤブサ。チヨウゲンボウ

キジ目

キジ科 ウズラ。コジュケイ。キジ

ツル目

クイナ科 クイナ。ヒクイナ。バン。オオバン

チドリ目

タマシギ科 タマシギ

チドリ科 コチドリ。イカルチドリ。シロチドリ。メダイチドリ
ムナグロ。ダイゼン。ケリ。タゲリ

シギ科

キヨウジョシギ。トウネン。ハマシギ。ツルシギ。ウズラ
シギ。オバシギ。アオアシシギ。クサシギ。タカブシギ。

キアシシギ。イソシギ。オオソリバシギ。チュウシャク
シギ。タンギ。

セイタカシギ科

セイタカシギ

ヒレアシシギ科

アカエリヒレアシシギ

カモメ科

ユリカモメ。セグロカモメ。カモメ。ウミネコ。アジサ

シ。コアジサシ。クロハラアジサシ

ハト目

ハト科 キジバト

ホトトギス目

ホトトギス科 カツコウ。ツツドリ。ホトトギス

フクロウ目

フクロウ科 オオコノハズク。アオバズク。フクロウ

ヨタカ目

ヨタカ科 ヨタカ

アマツバメ目

アマツバメ科 アマツバメ。ハリオアマツバメ

ブッポウソウ目

カワセミ科 カワセミ

キツツキ目

キツツキ科 アカゲラ。アオゲラ。コゲラ

スズメ目

ヒバリ科 ヒバリ

ツバメ科 ショウトウツバメ。ツバメ。イワツバメ

セキレイ科 キセキレイ。ハクセキレイ。セグロセキレイ。ピン

ズイ。タヒバリ

サンショウウクイ科 サンショウウクイ

ヒヨドリ科 ヒヨドリ

モズ科 モズ。アカモズ

ミソサザイ科 ミソサザイ
ヒタキ科 ヒタキ。ノビタキ。トラウグミ。アカハラ。ツ
グミ。カグイ。コヨシキリ。オオヨシキリ。センドイ

ムシクイ。キクイタダキ。セツカ。キビタキ。オオルリ。サンコ
ウチヨウ

エナガ科 エナガ

シジュウカラ科 ヒガラ。ヤマガラ。シジュウカラ

メジロ科 メジロ

ホホジロ科 ホオジロ。コジュリン。ホオアカ。カシラダカ。アオ

シ。クロジ。オオジュリン

アトリ科 アトリ。カワラヒワ。マヒワ。イカル。シメ

ハタオリドリ科 スズメ

ムクドリ科 コムクドリ。ムクドリ

カラス科 カケス。オナガ。ハシブトガラス。ハシボソガラス

(以上一五〇種類)

◇ 野鳥のカレンダー

2月	1月	月
○ 海岸	○ 沼地、河川 ○ 低山の林 ○ 庭(エサに來る鳥)	観察の場所
○ 梅ガモのなまき。ウミウ。ヒメ クイ。ヒヨドリ。ハヤブサ。 チヨウゲンボウ	○ カモ、ハクチヨウ 類 サギ クイナ、カイツブリのなまき ○ オオマシコ、ミヤマホオジロ ○ ムクドリ、オナガ、ヒヨドリ アカハラ、ツグミ、スズメ、 カワラヒワ ○ カモ、カイツブリ	見られる鳥

6 月	5 月	4 月	3 月	
○山地の溪流や林 ○水辺の草原 ○水田	○沼の水田地帯 ○海岸	○山地の林 ○村落やまわりの田 畑 雑木林 ○河原	○山地 ○低山や海岸の林 ○神社の森 屋敷森	○休耕地 ○雪の日の庭や田畑 ○狩猟シメズン終る
○山の小鳥たち ○コジュリン ヨシキリ オオヨシゴ イ オオバン バン ○ヒクイナ バン タマシギ	○シギ チドリ類 アジサシ ○ミズナギドリ類 ウミスズメ コア ジサシ シロチドリ イソシギ ○アカシヨウビン サンコウチヨウ バチクマ	○ツバメ サンシヨウクイ サンコウ チヨウ サシバ ヨタカ アカモズ ○コチドリ ヒバリ セツカ セグロ セキレイ イソシギ ○クマタカ サシバ	○カラ類 ミソサザイ ヤマセミ ○マシコ類 ヒワ類 イスカ ウソ ○フクロウ カラス モズ エナガ	○ホトトギス カシラダカ ウグイス タヒバリ ○ホオジロ、アオジ、カワラヒワ

12 月	11 月	10 月	9 月	8 月	7 月
○山間池 養魚池 ○山地 ○観察記録	○海岸の河口 港 ○水田 ○沼地	○林や田畑 ○沼地	○海岸の砂浜 沼地の浅瀬 ○沼地 ○草原	○山の林 ○海岸 沼地 沿いの湿地 川	○山の林 ○夜の森
○オジロワシ オオタカ ハヤブサ オシドリ ヤマセミ ○イワヒバリ ハギマシコ ウソ カヤクグリ	○カモメのなかま ○タゲリ ○ガン カモ ハクチヨウ テユウヒ オオバン クイナ	○ツグミ アトリ カシラダカ ジョ ウビタキ ○ノスリ ミサゴ カモ アオサギ カワセミ	○シギ チドリ ○カモ類 ヒクイナ バン カイツブ リ タマシギ サギ ○キンバラ ギンバラ ベニスズメ	○カラ類の混群 ○シギ チドリ類 サギ類 アジサシ	○ホトトギス ウグイス サンコウチ ヨウ ○アオバズク フクロウ オオコノハ ズク ゴイサギ ササゴイ ヨタカ

プランクトン

佐賀 純 一

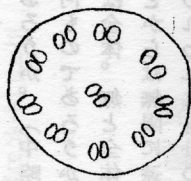
去年の秋から、僕は少しずつプランクトンを調べている。霞ヶ浦や桜川の水の検査をするのにリープマンの生物学的指標を僕にも利用できまいかと思い始めたのがきっかけで、顕微鏡写真を撮って、少しづつ水の中の生物を見てやろうという気持ちになつたのである。

汚水を顕微鏡でながめてみると、ほんとうにおどろくほど不思議な世界が広がっている。なにも今までさんざんのぞいてきたのだから、今更おどろくこともないのだが、川にプランクトンネットを投げて集めてみたのは始めてのせいもあつて自然の神秘を改めて思い知らされる思いがする。たつた一滴の水の中に何百何千という数の微生物が、ごちゃごちゃとたえまなくうごめいている。家庭の雑排水や便所の汚水が流れ込む溝には、様々な細菌のほかに、原生動物がとて多い。ドブの中からピンセットで、ほんのわずかな汚物を拾いあげ、スライドグラスにのせてみると、ゾウリ虫やら緑虫が微細なゴミのかけらや腐敗の屑を、大忙がしで動き回っている。カン

ブリヤ紀から進化をやめ、何億年もの間そのまま単細胞として生き続けてきているこの生物は、四〇〇倍の倍率にしても、まだよく見定めがつかぬほどのうすいフィルムのような膜を境にして、ちゃんとした個体としての生命を保っている。米粒のような体の横腹に口らしきものがあり、一つの大核と小核と収縮細胞と、そのほか数千のミトコンドリアや液胞などをもっている。ミトコンドリアなどは光学顕微鏡では、ほんのつぶつぶにしか見えなもののだが、ソラマメのような形をしたこの細胞器官は、長経が二μぐらいで、中にはいくつもの突起がある。電子顕微鏡写真で見ると、その内部構造はガランとしていて、ところどころに棒のような出っぱりが突出しているだけの、ごくつまらないものだが、実はここで、その生物の活動エネルギーの源泉であるATPを製造しているというのだから何とも信じられぬ思いにおそわれてしまう。それどころか、粗面小胞体という、カンピョウを積み重ねたような膜構造の器官は、リボゾームという直径二〇〇μほどの、電子顕微鏡でさえ、ほんのゴミつぶほどの黒い点々にしか見えない微細果粒がくつついているのだが、そんなちっぽけな粒子の中で、蛋白質の合成が行われているというのだから、どうにもあきれるばかりだ。そしてこのリボゾームは、ゾウリ虫のような生物だ

けでなく、メノテリヤでさえちゃんと保有している。

12月の中頃、川口川へ行つて、ネットを投げて見たらじつにおどろくばかりの数の、さまざまな織毛虫を採ることができたが、よくみてみると、この織毛運動というものの、ほんとうに不可思議なものである。一つの個体は何百本もの織毛を持つているが、その一本一本が図のような横断面をもっている。つまり中心部に、長軸にそつ



(電顕鏡像10万倍)

て二本のフィラメントを持ち、その周囲に九本またはその倍数のものが並んでいて、この構造は織毛もベン毛も基本的には同じであるという。そして織毛が動く場合、中心の二組のフィラメントの命令によつて、前部の五組のフィラメントが収縮し、残る四組は休んでいるが、収縮が完了すると、四組の休んでいた方が基部からゆつくりと収縮しはじめ、織毛の動きをもとにもどす役目をする。ところがこの運動は一本で行なわれるのではなく、何百本もの織毛が、少しずつ運動周期をずらしながら、波が一方へ進むように運動してゆくのである。そうでなければ各織毛がごちゃごちゃからみあつて、収拾がつかなくなつてしまふ。ところが何の力が全体の運動を統御している

のかということに関しては、まだほとんど仮説の状態にしかすぎない。電子顕微鏡でさえ一本の棒にしか見えないフィラメントの中に、更にもつともつと複雑な何物かが潜んでいるにちがいないのである。

僕が、或る日顕微鏡をのぞいていたら、カメラ屋さんが来たので、ちよつとのぞかせたら、

「うわつ、こりやまるで宇宙を見てるようだ。」と、いつた。

僕は、びつくりした。これと同じことをバスカルが、「パンセ」の中で言ったことを思い出したからである。

△私はそこに一つの新しい深淵があるのを彼に見せてやりたい。私はこのアトム略図ともいふべきものの内部に、目に見える宇宙ばかりでなく、およそ自然について考えられる限りの広大無辺のものを描いてみたい。...

彼はそこに無数の宇宙を見るであろう。しかもその各々には、それぞれの大空と遊星と地球とが、見ゆるこの世界におけると同じ割合で属しているのを見るであろう。

彼はその地上にもろもろの動物を、ついにはダニを見るであろう。(注。17世紀に生きていたバスカルは、ダニを微少なものの代表として、ここに記したのだと思う)そしてこのダニのうちに、最初ダニにおいて示されたすべてのものを、ふたたび彼は見いだすであろう。

なお次のもののうちにも、果てしなく、休みなく、それと同じものを見いだしてゆくならば、広大のゆえに驚くべき一方の驚異と同様、微少のゆえに驚くべき驚異のうち、彼は自己を失うであろう。なぜなら、さきに万有のふところにあつて、それ自体目につかないほどの宇宙のなかで、あるかなきかのものにすぎなかつたわれわれの身体が、いまや、何びとも到達できない虚無との比較においては、一つの巨像、一つの世界、あるいはむしろ一つの全体である。誰か、これにおどろかないものがあるうか。(中略) そもそも人間は自然のうちに何のものであろうか。無限に比しては虚無、虚無に比しては全体。無と全体とあいだの中間者。両極を把握することからは無限に遠く隔てられている。(中略) それゆえ、われわれは自分の分限をわきまえよう。われわれは何ものかではあるが、すべてではない。われわれは存在に關して若干のものをもっているがために、かえつて無から生じる第一原理についての認識をうばわれている。またわれわれは、存在に關してあまりに僅かしかもつていないために、無限への展望をさえぎられている。われわれの知性が思维的な事物の秩序において占めている位置はわれわれの身体が自然界の広がりにおいて占めている位置に等しいV

パスカルの言っていることは、三百年もたった現在においても、ひとつも真実性を失なっていない。アインシュタインの理論をもつてしても、宇宙の神秘は解けなかつたし、電子顕微鏡を駆使しても生命の秘密を解き明かすには至っていない。

顕微鏡の下で、たったひとつの細胞しかないゾウリ虫が、あつちこつちと動き回っている。その中でも、また無數のつぶつぶがごちゃごちゃと活動している。その一つ一つが必然的な力に支配されて動いているにはちがいないのだが、一見すると、どうしても無秩序なうごめきとしか思われない。フォルマリンの一滴が、この生物の生命を完全に奪うことができる。その力を、僕はどこの独裁者よりも、確実に保有している。しかし、その僕は、ゾウリ虫はおろか、ひとつのバクテリアさえ作ることはいできない。これはどんなに偉いノーベル賞の学者でも、できつこないのだ。そう考えると愉快にさえなってくる。

へわれわれの知性が思维的な事物の秩序に於て占めている位置は、われわれの身体が自然界の広がりにおいて占めている位置にひとしいV

まったく、その通りだ。われわれは身のほどを知ればいいのだ。ひとりひとりがこの言葉の真実をはつきりと理解できれば、その時こそ宇宙はわれわれと一体となる

である。川にネットを投げ、フランクトンを探取して、これを観察することは、ほんとうに楽しい。皆さんも気が向いたら、いっしょにいかがですか。

琵琶湖訴訟と霞ヶ浦

中 沢 玲 子

三月二十六日琵琶湖総合開発環境権訴訟が大阪地裁に提訴されました。その訴状の要旨及び抜粋は次のとおりです。

原告は琵琶湖沿岸と下流の淀川流域の住民組織共闘で一一八六八人。弁護団は大阪、京都の十七弁護士。事業主体の滋賀県と水資源開発公団には工事差止めを、国と大阪府にはそのための財政援助などの協力行為の禁止を求めています。

請求の原因として、まず手続上の違法性につき、

「……このような計画を国会の議を経ないで滋賀県知事

が案を作成し、内閣総理大臣が決定する行政手続のみにより決することは違法である。」とし、次に開発行政権の濫用として、

「……開発計画の根底となつてゐる水需用予測は根拠がなく過大」とし、更に環境アセスメント（事前評価）の無視の項では、

「……このような住民の権利から自然環境に対し開発事業など人為的な変更を加えようとする時は、何人といえども次のような義務がある。

すなわち事業者はその事業の結果、自然環境にいかなる影響が生じるか充分な事前の調査をなし、かつその結果、関係住民の生命、身体や生活利益を侵害することが予想される場合は、その事業を中止ないし変更しなければならぬ。また調査の結果が安全であると判明して事業を施行する場合にも右調査の結果を開示し関係住民の同意を得る義務がある。」

と、述べられています。次に第四の項目

『予想される原告らの被害』

を琵琶湖と霞ヶ浦の場合を比較しながら、その要旨を追つてみましょう。

琵琶湖

面積 六八五四九平方Km
貯水量 二七五億トン
水深平均 四一m
(但南湖平均三五m)
流域人口 約一三〇万人
流入河川 約一〇〇
海拔水位 一〇〇m

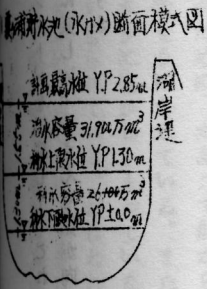
一、水位低下による被害
利用水位、基準水位
プラスQ三m、マイナス一

五m。非常渇水時には最高
二mまで下げて毎秒四〇ト
ンの利用計画。そのために
まず河川の保護と衛生関係

震ヶ浦

二一八平方Km
八億トン
四m
約八〇万人
約五〇
海拔 一m

琵琶湖は水源湖であるが震
ヶ浦は河口湖である。その
ため流域の汚濁物の流入量
が多く、加えて畜産県であ
ること、農地排水、養殖ゴ
イの餌料等琵琶湖より汚濁
の原因は多いのである。



琵琶湖

の変化が予想される。浄化
能力があるとみられている
入江や内湾の水草部分の相
当が干上り、魚の産卵、棲
息が失なわれる。魚類のみ
ならず生態系サイクルが連
鎖反応し、水草の果たす浄
化作用も失なわれて水質は
悪化するであろう。琵琶湖
北部の余呉湖が人為的水位
低下により大量のプランク
トンが発生したことは格好
の例である。

震ヶ浦

新規利水計画
(m^3/s)

区分	上水道	工業用水	農業用水	計
茨城県	2.5	16.6	15.2	34.3
千葉県	1.0	1.2	2.0	4.2
東京都	1.5	-	-	1.5
計	5.0	17.8	17.2	40.0

現況平年水位YP一〇m。
年間流出量一四億トン(秒

四二トン)を常陸川水門を閉
め切つて毎秒四〇トンの利

用計画。更に五年には工
業用水だけで年八億トン取
水の予定。県西震ヶ浦用水
事業の決定。本年三月那珂
川、利根川より秒一ハトン

の渾水決定。琵琶湖は十年に一度位の水位低下を予想され、霞ヶ浦は三四年に一度の低下が予想されるといわれている。更に第二次開発のプランが着々と進んでいる現況で琵琶湖を上まわる被害が予想される。湖の水位が1m下ると西浦の汀線は100mも後退することになる。

二、瀬田川浚渫、洗堰改築による被害

琵琶湖から流出する河川は瀬田川のみであり瀬田川は宇治川となりやがて淀川となつて大阪湾にそそぐ。琵琶湖の水位が低下しても所要の水量を放流することができよう瀬田川の川底を掘り下げ、洗堰を改築す

る。その場合湖底の土砂浚渫によつておこる有害物質の攪拌と汚水による被害

三、湖岸堤及び管理道路建設による被害

基準水位プラス2.6mの高さ。延長約50km。汀線の破壊をもたらさざるを得ず水草水域に大きな影響を与え自浄作用が著しく衰え、水質悪化。附近住民や水辺を求める一般人の立入りを拒む結果となり水辺に憩いと心のやすらぎを求めることができなくなる。

を予想させるものがある。明確に貯水池の為に使用されることになつた現在の逆水門は洗堰の未来の姿でもあろう。

三、Y P 3 m の高さ。

延長1.96kmのうち1.49m完了。計画水位より1.5cmしか余裕がない(図一参照)

水位上昇の時は水田は排水不良となり、水位が下つている時は揚水困難(ポンプアップすると言っているが)になるであらう。洪水の危険も考えられる。

四、下水道終末処理場による被害

草津市矢橋町新浜町の湖岸

四、現在進行中の霞ヶ浦湖北流域下水道計画は四三万人下水50万 m^3 /日。琵琶

琵琶湖	から約二五〇m沖合に面積約六七haの人口島を埋立により造成し湖南中部浄化センターを建設。家庭四八万m ³ /日、工場汚水四六万m ³ /日の混合処理。三次処理は現状では飲料水に向く水質まで放流水質をよくすることはできない。工場汚水を下水道に受入れることは多量の重金属や有害化合物が放流されたままになつてしまふおそれが多い。大規模な施設であることの問題点。有害物質を含む汚泥の処理の問題
琵琶湖	湖同様大規模な施設で大量な処理水を放流し、リン除去や一部の重金属除去が充分でなく、しかも工場排水と混合であることは、水質悪化をもたらす。

琵琶湖	一五の内湖が干拓され大津市域その他で湖岸が埋立てられている。内湖、内湾及びそこに流入する小河川の自浄作用のメカニズムが近時明らかになり干拓が汚染の一因となつてゐることは判明している。
琵琶湖	水質汚濁と人体に対する被害 湖底にたまつていた金属、化学物質（PCB等）が水位低下に伴い風等の攪乱作用により湖水に溶け出す。食物連鎖による生体濃縮機構によつて魚や貝などに蓄積され、それを人間が食べる。食物性プランクトンでランソウ類の一種ミクロキステスは人体に有害であり
琵琶湖	六透明度においてもCODにおいて、琵琶湖が数年のちに、予想される事態がすでに琵琶湖では現実のものとなつてゐる。
琵琶湖	備考
琵琶湖	48.7 茨大琵琶湖研究会
琵琶湖	48.10 茨大琵琶湖研究会
琵琶湖	48.10 毎日新聞
琵琶湖	71年度-水質汚濁共同調査報告書
琵琶湖	化学的酸素要求量COD (PPM)
琵琶湖	7 ~ 13
琵琶湖	9 ~ 19
琵琶湖	1 ~ 3
琵琶湖	3 ~ 11
琵琶湖	透明度(m)
琵琶湖	04~13
琵琶湖	2~4
琵琶湖	1~2

水道のホビ臭の原因は究明されておらず、それらを長期にわたって継続的に飲用することの将来への生命の被害。

セ魚獲減少による被害
年間魚獲量約六〇〇〇トン。殊にアユは全国の五割を占める。漁業補償一三七億円妥結。魚貝類は湖に流入するリン、チッソを動物性プランクトン、小生物、魚、人間という経路によつて陸へ上げる役割をしておりその役割は大きい。従つて魚の減少は漁業者に対する被害のみのものではない。

ハ景観破壊
九湖底遺跡の破壊

学名 ミクロキステス
(アオコ)

セ内水面の漁獲量としては日本一。年間約一三〇〇〇トン。漁業補償七億五千万円（高浜入干拓分別）妥結。すでに被害は出ており塩分濃度の低下による天然シジミの斃死、養殖シジミの斃死、養殖ゴイの大量酸欠死、奇病魚の出現、その他遡河性魚類（ウナギ、スズキ等）および気水性魚類（シラウオ、シジミ、アミ等）の減少は顕著であり、特にアミは他の魚の餌料となる重要なものである。

一〇リグリエーションに及ぼす被害

一〇現在琵琶湖では水浴ができるのである。霞ヶ浦で水浴ができたのは昭和42年位までであつた。

結論として「原告らは以上指摘した琵琶湖総合開発の危険性を看過することができず、琵琶湖が死湖に化することを防ぐため、被告らとの間で何年にもわたり交渉を続け、計画の見なおしを求めてきた。しかしながら被告らは原告の要求を受けつけないばかりか、本件各工事に關する資料も公開することなく、また原告らの疑問点にも何ら答えない態度で終始してきた。……。」とし判決を求めています。

以上の如く琵琶湖訴訟は、水質汚濁によつて住民の健康に被害を及ぼし（生存権）と湖の自然を享受しうる権利（環境権）を奪うので総合開発は不法とし、住民抜きの水行政のあり方を問い直すよう訴えられています。

琵琶湖では、霞ヶ浦とちがい工事はほとんど未着工です。環境権がまた法的認知を受けていない現状ではどのような判定になるか、困難が予想されます。霞ヶ浦と琵琶湖の総合開発は、その根底に利水優先、経済成長政策の目的をもっており、特に霞ヶ浦の場合、年間出荷額、

一兆五千億円の鹿島企業のためのものであることは明白な事実です。琵琶湖よりも一そう汚濁が進み、しかもなお五十一年度をもつて湖岸堤建設もすみ、完全水ガメ化しようとしている霞ヶ浦の現状を皆さんはどうお考えでしょうか。

△参考資料▽

琵琶湖総合開発計画工事差止訴状全文

えらいこつちや（琵琶湖、淀川汚染に反対する大阪府

民連絡会議、第一号第二号）

かわら版（琵琶湖訴訟団）

関係新聞記事（毎日新聞、朝日新聞三月二日付他10点）

霞ヶ浦総合開発基本計画（48。3月 茨城県）

霞ヶ浦周辺の地域性（茨城大学公開講座テキスト）

霞ヶ浦公害調査報告書（水戸弁護士会公害対策委員会）

霞ヶ浦―水質と水利用（霞ヶ浦シンポジウム実行委員会）

霞ヶ浦No.2―No.4（霞ヶ浦総合対策推進本部）

（会員）

わかるかなあ……

わからないだらうなあ

奥井登美子

厚生省委託の合同研究班による一年がかりの実験で、合成洗剤主成分のLAS（ソフト型、アルキルベンゼンスルホンサンソーダ）によるラットの胎児の催奇性はシロであるという結論がでた。

催奇性がクロであるなどということ、ちよつと考えられない程、おそろしいことなので、シロであると聞いて「やつぱりそうか」私としては、その程度の予想はしていたので別にどうということもなかったけれど、ものごと何でも、善と悪、悪人と善人、クロとシロにはつきり色わけしないと、気のすまぬ人も多いらしく、早速質問第一号。

「洗剤はシロのことですが、じゃあ、毒性は大丈夫ということなのでしょいか？」

「催奇性がシロであるということ、毒性ウンヌンは関係ないと思います。」

「じゃ、毒性はまだ残っていると考えていいのですネ」そういわれると、私は何と答えていいかわからなく

ってしまふ。私は私たりの考え方かも知れないけれど、中性洗剤の毒性というのは、中性洗剤の特性、つまり、中性洗剤の洗剤としての優秀性と全く同じことなのであって、台所用のを例にとれば、皿に附着した脂肪分もよくとれる代りに、人間の皮膚に必要な脂肪分までもと出し出してしまふから、長く使っていたり、濃度が高かったりすると、手の皮ふが、脂肪のないカサカサした状態になり、刺戟に対して無防備の形になるから、次に主婦シンシンと呼ばれるカブレの状態をおこしやすくなるのであって、かぶれをおこしやすい人からみれば、洗剤は毒性があるということなのであるうし、そうでない人からみれば、それは毒性と考えるにあたらないことなのではないか……今まで私は中性洗剤の毒性のことを、そう考え、扱ってきたつもりである。

中性洗剤に限らず、化学物質の毒性というものは、母親が二、三才の子どもに対して「あれはバッチイからさわつてはいけませんよ」という風な、バッチイとかエンガチヨの発想からは程遠いものだと思っていたら、バッチイとエンガチヨが、場合によつてはただちに毒物に昇格するみたいな発想には、何かしら、ついて行けないほどのとまどいを感じてしまった。

一方、昨年、県は婦人団体、消費者団体、自然保護団

体などに広くよびかけたからで、翌々年浄化のための家庭排水を考える会」をつくり発足させた。

第一回の会合は、コンセツテイネイ、かゆい所へ手のとどくような、お勉強会。第二回目の会合も、メーカー側の説明だけで時間が半分以上過ぎてしまった。一回目も二回目も、小中学生なみの「良い子のお勉強会」であったような気がする。いろいろな団体から人を集めたのだから活発なグループディスカッションを行い、次のその内容をつめていって、県政に反映させるのかと張り切つて参加した私にとつて、あまりに時間が勿体なさすぎたような気がする。

しかし、昨年十月の県議会報によると、県は霞ヶ浦周辺の婦人団体、消費者団体、自然保護団体によびかけて浄化のための家庭排水を考える会を組織し、中性洗剤をやめて、粉石けんを使うように、強力に運動を展開中である……ということになるらしい。

二回しかやらない「よい子のお勉強会」がなぜ、そういうことになつてしまったのか、そこはちよいと不可解なのだけれど、そのくらいのミステリーは、県議会の中では、ちよいちよいありそうなことで、私たちは、それをきくと「わかるかなあ、わからないかなあ……わからないうなあ……。」といった具合に落語家のナン

セリギヤグの方に、より高い真実性を認めてしまいうものである。

わかっていること、たしかなことは、この勉強会の最後の所で、中性洗剤をやめて石けんを使う運動をみんなに推進しようという提案に、私ももう手をあげて賛成したことがある。

粉石けんにすべて切りかえるとすると、BODの負荷量は、たしか二十倍くらいになるといわれているし、色々な問題点も出てくることはたしかである。それにもかかわらず、私が中性洗剤を使うべきでないとする、その根拠は何なのだろうか？。それは私が自然保護というものを考える上での本質的な問題にかかわってくるものようである。

地球全体のバランスの問題として、人間は微生物が分解してくれる以上の、特定の物質を生産すべきではないのではない……自己流のコジツケかも知れないけれども、私はこれまで、そう考えて行動してきたつもりである。

中性洗剤に含まれている成分は、今、微生物の力をかりてやっている下水処理技術では無理だとされている。技術的に可能な時がくるまで使用量をへらすよりほかないのではないか、そう思ったまでであつて、確信性があつたところ、それから、中性洗剤をやめた方がよい

という意見にわかりがないのである。

会員自己紹介

上原千津子 (45才。一男一女の母)

△職業▽薬剤師・山口薬局勤務。子どもの本に興味をもち、将来「家庭文庫」を開きたいと思っています。

大石恒雄 (明治41年生まれ 68才)

小さな孔版印刷屋を始めて四十数年さつぱり大きくなれませんが。しかし人に使われもせず人を使ひもせず家族労働の毎日は結構楽しい。△趣味▽下手な魚つり。さる暮・さつぱり出ないパチンコに熱中。腹立たしいことばかり多い世の中をさり気なく生きる方法を考えています。

小笠原 徹

今年で半世紀を生きてきたことになりました。半世紀の間に土浦も全く変わりました。十年一昔にビッタリの昨今。自然への憧憬だけは絶対不変……ますます心に深く。「土浦の自然を守る会」も永遠に胎動を続けますように。

岡田 包夫 (六十五才)

△職業▽松川町地区長。松川町教育学校校長。土浦地区交

岡野昭(50才)

△趣味▽詩吟を少々。

『趣業』主婦として……台所からの発想が、今の日本にとって一番大切なことと思うので、主婦としての実感、日常性を大切にしたい。薬剤師として……薬剤師というよりは薬局のオバサンつて感じ、小さな商人だけがもっているシタタカな抵抗精神を大切にしたい。

《趣味》絵を見ること。子どもの本を読むこと（ノーマ
ソの中味もおよそさつしがつくというもの）

喜古愛子

栗栖惠子

この四月より土浦一中に転任、狭い運動場で息がつまりそう。それで亀城公園を第二の校庭と考えて、やつと一息ついています。

鯉
淵
隆
(七十才)

林学を専攻し、林野庁関係に三十一年間勤務したので日本の有名林業地については大部分行脚する機会に恵まれ、また官界をやめてからも、林業関係の協会にいた関

係上、再度全国各地の山を歩きまわりましたが、その移り変わりのはげしいのに驚かされたことも少なくありません。昨秋にはその筋の依頼で、広島、岡山県下の山林を調査しました。まだ山歩きには自信があり、暇をみては近くの山を歩きまわっております。植生に興味をもっているので、採集したり、栽培して楽しんでおります。庭には三十種ほど植えています。開花は写真に収め、わが家の庭園アルバムを作っています。△趣味▽写真、鉢植えのいたずら。最近庭に来る小鳥に興味を持ちはじめました。△職業▽なし。

後 藤 直 和

県北の山の中の出身。昭和二十六年に学校（東京高等師範）卒業と同時に土浦一高に赴任。それ以来、生物教師として、また土浦の住民として二十五年、この土地に深く根を張りました。現在は江戸崎西高校の教師。昭和一ケタ生まれの、遊ぶことが一番下手な中年です。

△趣味▽山歩き（高い所はダメ）と洋ラン栽培。

佐 賀 満

△職業▽火災保険セールス。△年令▽三十八才（但しこの年齢ナンカショウとかにかかり、それより五年経過しているやら、昨日のことやら、三十年経過しているやら不明なついでに不慮△△△△これといつてないけど、奇術

かな？。△趣味▽日本舞よう△所属▽その昔作詞などしていたので、日本音楽著作権協会会員。

須 田 直 之

△種名▽須田直之 △生息地▽土浦市中高津トツ花丸
○一六△行動範囲▽生息地と土浦二高生物室、土浦駅間を毎日定期的に回遊する。△形態的特徴▽生物年令49才一六七センチのズン胴、胴長の短足。腹部いちじるしく出る。目はギョロ目。短髪。△性質▽亭主関白にしてワシマン性に富む。上からの一方的おさえつけに対してはいちじるしく反発する性質あり。物事を徹底的に行なう習性あり。いい加減な仕事をきらう。若年のおりは、マラソン及び水泳、ラグビーの選手たりしも、現在は全然ダメ。職業上生物写真撮影を好む。豆腐、魚類、海藻を好んで食する。ナニワ節的性格ありて、依頼を受ければドンと胸をたたいて損をすること多し。野山や水辺をホツキ歩くことを大いに好む。泥と太陽とケンカで少年時代を過せし生物なり。

高 木 純 子 （昭和一ケタ生）

水と縁にあこがれて土浦に移り住んで九年になります。越したとたんにカビ臭い水道水にびつくり。東京よりまだまし水があつたのに驚きました。それが自然を守る会へ入会した原因です。

▲好きなこと▽読書（童話、隨筆、推理小説）山草を見ながら山を歩くこと。気がむいたときにケーキを焼くこと。▲嫌いなこと▽汚ない言葉。拘束されること。

▲思うこと▽私のような不精な人間が、何とかしなくてはと思うほど不安なことの多い世の中になったのはなぜでしょうね。

高嶋 永幹（六十一才）

▲職業▽大学教授。郷里は九州福岡県。いまは閉山となつてゐる筑豊炭田の中心都市飯塚です。思ひぬことから土浦近くに住みつき夢のように二十六年が過ぎてしまいました。これからはやりたいことだけやろうと念願しております。

高橋 文男（七十六才）

▲職業▽会社員（荒川沖ハイヤー株式会社）▲特技▽なし。▲趣味▽吟道（土浦地方詩吟連盟理事長）自然を守る会の方々の真摯なためまざる活動には頭の下がる思いです。私はこういう自然を守ることにについては、子供のうちに教育すること。つまりひとつの躰として実行していくより外なないと考えます。幼児、小学、中学の先生と母親がこれらの目的を達するため、躰が完成するまで努力していかねばならないと存じます。これ等の運動を展開する原動力は私共の守る会だと思ひます。

田谷 利光（大正十五年生れ）

生まれつきけちのせいとか、消費生活がにが手である。何でもボーボーと捨てるデイスボの時代とあつて都会のがれ農村へ。もののないときにものをつくる喜びをもつた嬉しさは米づくり野菜づくりにはげむ人々への愛情となつて生きている。終戦まもなく安中の航空隊あとで夏草やつわものどもの夢のあとと嘆き、越後路の巡回診療で、国破れて山河ありと涙した多感な青春の血が、今また国栄えて山河なしを憂うるに至り、自然を守る会へ入る。なにかのときには、医療相談に応じます。

田谷 光子（昭和三年生れ）

竜虎の交わりと先にたてられ一緒になつたが都会生活へあこがれた乙女の夢は微塵にくだけて、ドサまわりの好きな亭主のためによくぞ我慢した麻生の十年、旧知の人の多い土浦へ戻つて十年。そのサークルをひろげて水を得た魚のごとし。霞ヶ浦も早く昔のようにきれいなつてほしい。▲家族▽光一（東京医大）有子（土浦二高）晴司（土浦一中）ゆき（母）

長南 美代（二十八才）

主婦、四才の男児の母です。音楽大学を出ましたが、クラシックよりもつばらカーペンターズを聞く毎日です。小説『複合汚染』を読んで以来、化学肥料も農薬も

使わない家庭菜園をはじめ、自然のすばらしさに心うたれる今日この頃を送っています。畑があいております。ご希望の方にお貸します。どうぞお使い下さい。暇をみつければスカートなども縫っております。

辻 葉 子 (昭和八年八月七日生)

△職業▽土浦協同病院産婦人科長 △家族▽総勢九人。
三児の母。大家族の嫁。△亭主▽医師、大人物のおもむきあり。△身長▽一五〇センチ△体重▽四〇キロ断髪、一見少女風。思考も……。大人になり切らないところあり。△好きなもの▽若くて美しい男性(女性には職業柄見あきた) △嫌いなもの▽自分の誕生日、バーマネット。
△趣味▽詩・随筆・絵のごときものを少々。

飛田 君 枝

「桜川」No.6に詩を書いたのがきっかけで、自然を守る会に入りました。女性も社会の一員だから、ただ家庭に閉じこもってしまつてはいけないというのが現代の通り相場だけれど、生来怠けものの私は、埋もれて、忘れ去られてしまうことに最大の憧憬を抱いています。役に立たない会員で申しわけありません。

中 沢 富 雄 (四十九才)

土浦市農業委員会に議席を得ている酪農家です。高度成長政策により土浦市内に企業の買占地が百町歩を越え

たことが、委員会の調査で明らかになり、転用計画もないまま、荒ぶ化し、黄色いアメリカ泡立ち草の花が咲いています。自然の力、その中に秘められた法則性等、俗に自然という実体に、一番身近かに接している職業は私も農家であると思われれます。「自然を守る」という言葉と意識は、あらゆる分野で叫ばれています。たえず土から足をはなさずに生きてきた農業者は、こうした運動に心を動かして参加している人が少ないようです。何故だろうか。自然は自然には守り得ないことを良く体験しているのは、誰あろう、農家の人々であるからだ。都市は農家という名の自然の防人達にその周囲が保護されその安全を保たれている。山も谷も湖も、その人々なしには、地獄そのものである。農家が生きるためには、背に腹は変えられず、土地を手放すことによつて、俗にいう自然の崩壊が始まるのであり、自分の手をはなれたら最後、自分たちのように土地の面倒を見てやれるものはいないことを一番よく知っているのである。自然にはその母親と父親が居るのである。自然は親なしには独り歩きができないし、掛け声だけでは育たない。文明の足どりは、自然の開拓史であり、限られた自然を百倍千倍に肥やし育てる作業につきる。語らずに黙している農家の人々に、その閉じた門を開かず事ながら、自然を具体的に

守る第一歩ではないか。私はそう思っている。

中沢 玲子

△このごろ特に好きなもの▽自然の中で茫然としていること。人と黙ってむかいあっていること。子供のキラキラ輝くひとみ。グレゴリオ聖歌。レンブラント。美術関係のご相談にご利用ください。

沼尻 たけ子 (六十九才)

『本日一日明るく清く存分に力一杯の働きをさせて下さい』これは、長い間の私の念願なのです。この私は当年六十九才の老婆、会員でありながら日曜日は教会礼拝に出席しますのでいつも「自然を守る会」には欠席にて恐縮しています。昭和五十年年度の卒園者を最後に只今保育園経営に終止符を打とうとしています。幼児達の輝くひとみに囲まれて。

船津 寛 (三十八才)

△職業▽教員・茨城県立石岡商業勤務。△特技▽なし。

ルソーは人間が善くなるのは、自然からの教育が一番重要であることを訴えております。私は友部町の北川根地区住吉という所に生まれました。私の小さい頃は大きな池が五つくらいあり、家のすぐ近くをきれいな川が流れ魚がずいぶんとれたと聞いております。今は池もその川もなく全部埋めたてられてしまいました。そのことをな

によりさびしく思うことがあります。

保立 俊一

土浦で店を開いて今年で百五年目、私が四代目の飲食店。以前は魚問屋。古い土浦に郷愁を感じながら今の土浦を少しでも住みよい町にしたいと思い毎日を過ごしております。大正三年生まれですから還暦を過ぎて昔なら御隠居というところですが、まだまだしたい事がいっぱい。でも思うことと、できる事の相違の大きさにタジタジして心の重いのが現況です。一つの仕事をなし遂げることは、大変な事だと思えます。△趣味▽絵を画く事。ハミリカメラを廻らす事、絵につながつて風を作る事等で、まだ幼児期をぬけきらないこどもっぽい人間だと自分であきれている次第です。でも、今の世の中の変則的な成長の中で、一人ぐらい異端者がいてもよいではないかと胸をはって自己主張を通して行きたいと思えます。同類が自然を守る会の会員に多いのも心のなぐさめになり、お互い手を取り合つて運動を進めて行きましょう。

真山 淑枝

三十五才を過ぎてしまいました。十代の頃老人と思っていた、こんな年令まで生きている予定はなく、何をしていたかとまよいばかりかまさに恥多き日々ですが、こうなるとどうやら人間という存在もほんやりながらも見

えてきて、これからは「腐りつつある地球」に無関心でない六十代、八十代を考え、したたかに生きてやろうと怠け者の自分にムチ打つもりでいます。

《職業》主婦、この名称ほど、単純なくせに、明確でなくまた、独立でないものもないかと思ひます。だからこそ、可能なかぎりのヘンシンをしていきたいと思ひます。とりまく敵は多様化し、かつ専門的なので、今はそれらと戦える武器を内蔵した主婦にとかなりサビついた頭とくもつてきている眼をきたえて家内からしつかりした個として外への参加を仕事にできるようにとのヘンシンを考へています。

三 田 伸 子 (五十一才)

私はこの土浦にきて五年目、土地の人と仲良しになりたくて、社宅をきらい、普通の家を借りたのですが半年で心臓病で倒れ、急きょ社宅に入り、現在その囲の中だけの生活をしております。土浦の自然を守る会を新聞で知りました身体のほうは今でも佐賀先生にお世話になつてますので、お仲間に入れていただきました。社会とのつながりを大事にしたく、また自然を守ることの大事さに共鳴して入ったのですが、一緒にいろいろの所に行けないのが、かなしく思ひます。地域住民が霞ヶ浦の水の汚濁、下水道のないう市等に関心が低いのが市議会にも反映

しているのが残念です。

《職業》主婦、木彫などをやっています。

宮 本 昌 子 (三十三才)

《職業》教師。《趣味》絵画・茶道・華道・手芸、いつも残念に思うことは「土浦の自然を守る会」のいろいろな行事に参加できないことです。

横 山 律 子

《好きなこと》ひとの話をきくこと。毎日いそがしくくらししているつもりでしたが《特技》《嫌いなこと》《やってみたいこと》の欄にいざ何か書こうと思つても、書くようなものはありません。お許し下さい。

渡 会 春 男

計理・税務を職業とする特技なき四十才の男子。趣味多く時間少ないため、目下余暇は魚つり、観刀(刀剣の観賞)程度。海辺に育つたせい、海が好きで、その自然を破壊する事なく、大会をもつと科学的に活用できないかなどとソロバン片手に不逞な妄想をもっています。

渡 部 磯 雄

土浦生まれの土浦育ちですが、目下のところは勤の都合で水戸の宿舎におります。そのようなわけで会の活動に積極的に参加できず、皆様に申し訳なく思っています。

し、私自身残念に思います。国立工専で電子工学の方を
教えています。化学の先生方と時折公署について話し合
いをしますが、研究という立場からは結論、結果を出す
ことはなかなかむずかしいのですが、それよりその地
に住む人々が実際の公害などに気づいて行動に表わして
くるのが更に時間を要し、全くこの種の運動のむずかし
さを痛感しております。

× × × × × ×

会員のうち、ご返事をいただいた方々を掲載いたしま
した。まだお返事をいただかない方は、次号に掲載いた
しますので、どうぞお送り下さい。

△追 加▽

菅 原 均 昭和17年5月25日生れ。日立市で生れ
て岩手県で育つた東北っ子。△現住所▽水戸市平須町
一八二一七平須団地十七棟B三号。41 五七七〇
△勤務▽新しいばらきタイムス社土浦支局。モットーは、
“記者である前に人間であれ”

土浦の自然を守る会経過報告

(50年11月～51年4月)

- 11・9 土浦の自然を守る会第四回総会(詳細桜川9号)
11・15 「桜川」九号発行
12・2 水道料金値上げの件で“くらしの会”と打合せ
12・4 市議会に陳情書提出

市長と会見し陳情書を手渡しする。

“上水道水質検査の公表を望む”(注1)

“水道料金値上げよりも水質浄化のための抜本的
対策を”(注2)

- 12・5 九月に再提出の「霞ヶ浦の水質浄化に関する請
願書」が県会に提出され、畜産排水については

採択、その他については継続審議となる。

- 1・20 自然を守る会だより10号発行

無農薬野菜配布の件で柴原さんと話し合い次の
ことを確認しました。(注3)

配布11月9日大根、12月10日白菜、12月20日
白菜、レタス、1月26日キャベツ、レタス、2
月10日キャベツ、3月5日キャベツ

2・7

佐賀氏宅で昼食会

桜川十号発行の件、「土」の問題を考えてみようということ。川の水質検査。BOD、DOと顕微鏡との関係。桜川自然公園の件で市、都市計画課と懇談しました。

消費者と生産者の接点を求めて「ディスカッション」に希望者参加。

2・13

3・1

当会と無農薬無化学肥料野菜の配布契約をした柴原さんの畑が学園都市開発のための換地計画の対象になり、移転せざるを得ない破目になりました。土づくりということに心血を注いで日曜祭日もなく働きつづけてきた柴原さんとしては、今まで三年以上かけて、やつと無農薬栽培可能なものに育てあげた「土」を手はなすのは、あまりに残念で、せめて地表十センチの土を移転できないかと訴えたい気持ちだそうです。そういうわけで柴原さんの新しい畑の土づくりが軌道に乗るまでの少しの間、野菜の配布はお休みせざるを得なくなりました。残念ですがこの事件を機会に、私たちの会も生きているものとしての「土」の問題をもう少し考えてみたいと思います。

3・3

会員名簿印刷

4・4

穴塚大池を探索する会。参加人員20名。後藤直和先生指導。九時銭亀橋集合。終末処理場の脇を通って上高津貝塚跡を見て大池へ。曇天。さくら二分咲。堤防や水田のあぜ道につくしや可憐な野の花がいっぱい。

《注1》

(件名) 上水道水質検査結果の公表を望む

(理由) 土浦市上水道では毎月、市内三ヶ所の地点で、

上水道を取水し、果菜剤師検査センターに水質検査を依頼しておりますが、検査結果については公表されておられません。水道法第四条による水質基準の細部は厚生省令で六項目二十六種類の検査項目があります。そのうちの一つ蒸発残留物についてのみ最近おききしたデータによりますと許容量の五〇〇PPMを越えるものがでておりこれはあきらかに水道法による水質基準に適合しない水ということになります。土浦市の水道水の検査結果のほとんどが基準以下であつても、基準すれすれであるということは、今すぐ何らかの技術的改善を加えない限り、水道法による水質基準からみて、全部が飲料不適になる

可能性も目前にまわつてゐると考えられますので、最近数年間の上水道の検査結果を公表し、そのデータをもとにして調査研究し、市民が安心して水を飲めるように最善の措置をとられるように陳情いたします。

△注2▽

陳 情 書

(件名) 水道料金値上げよりも水質浄化のための抜本的対策を！

(理由) 土浦市水道部は来年一月より水道料金の大巾値上げを実施すると聞いております。きびしい不況下で市民生活に必要な水道料金の値上げを実施することは、当然県及び国で行うべき霞ヶ浦水質浄化のための抜本的対策を怠つたために生じた水道用水としての基準をはるかに低下した水処理するための経費で、これを利用者負担させることは納得できません。

その上、最近の上水道の水質が更に悪化し、水道法の基準に適合しない事もあると聞いております。私たち市民は安心して飲める水を求めております。市当局としましては水道料金の値上げを消費者にしわよせする前に、霞ヶ浦水質浄化のための抜本的対策を推進するべく県及び国に対して強力な姿勢で対処されるよう陳情いたします。

昭和五十年十二月四日

土浦の自然を守る会 代表
土浦くらしの会 代表

△注3▽

土浦の自然を守る会では、この度、桜村柴原善明さん(電・〇二九八一五七一八)の無農薬で作る野菜類を契約栽培のようなかたちで購入することになりました。無農薬野菜については消費者の関心が強く輪をひろげることも可能かとも思いますが、柴原さんとしてもはじめての試みですので、一年間は双方の試験期間として互いに無理をしないかたちで、すすめて行きたいと思ひますので、左記のことをよくご理解のうえ、周りの人たちに参加をおすすめ下さい。

一、ハウス栽培など不自然な農法を行なわないのでシェンのものでしか供給できない。

二、価格は市価と関係ない。無農薬栽培は大変人件費のかかるものなのですが、柴原さんは人件費は考えないで原価販売ですが、大量生産ではないので市価よりいくぶん高くなるのはやむを得ないと思ひます。

三、形がふぞろい、又は小さな虫がついているなどということは薬品を使用しない証拠みたいなものです。ご

理解のほどを。

四、現在行なわれている農産物の流通機構に対する、今の日本の農業に対する消費者なりのささやかな抵抗。および土を大切に、無農薬、無化学肥料で作つてみたいという青年、柴原さんを支援する意味をこめて出来たものはなるべく全部購入したいと思います。

6月8日―野菜のことで柴原さんを交えて皆で話し合い、次のことを決定。今までのような配布だと①数量にバラツキがあつて栽培計画がたてにくい。②配布集金に苦勞するなど問題点が出て来たので一応会員制としてためしにやってみることにしました。

問合わせは大和田、中沢、高木、石沢、眞、奥井まで

フンケイの友

夫……児玉と小佐野はフンケイの友だつてネ

妻……フンケイの友つてなに？

夫……糞の形をした友かな？

妻……ああ、じゃ、クサイ仲つてわけネ。

(奥井)

自然とは何か

佐賀純一

プランクトンの様々な動きを顕微鏡で眺めているうちに、人間という存在が極大と極小の世界における中間的存在であるというバスカルの言葉に思い至つたということとを前節に述べましたが、このことは必然的に、自然とはなにか、という難題に遭遇することを意味します。自然を守るといふことの真の意味は何かということを知るためにも、自然とはなにかという事を考察することは是非とも必要なことです。

水中の生物に限らず、一般に初めて顕微鏡をとおして自然界をのぞいた人がいち様にびつくりするのは、実に信じられないほどの生物が一滴のしずくほどの空間の中に無数に動めいているという事実です。肉眼的世界に生活している時には、昆虫の卵や風に吹かれて飛散する花粉、水中のみじんこ、せいぜいそういったものが、小さいものの代表であつたものが、顕微鏡の世界に入ると、実にそれらは、モンスターほどの巨大生物であつて、例えばみじんこの死骸をシャーレの中で数日も放置してお

くと、数千万匹のバクテリア・セン毛虫などが爆発的に繁殖して、同時にそれら食う大小の纖毛虫やらアメーバがどこからともなく発生してくるのを観察することが出来ます。このような無数の生物はやはり自然の構成員であつて、自然の生態を保持するのには欠くべからざるものなのでしょうが、私が顕微鏡をのぞきながら考えるのは、いったいこれらの生物と人間との関係はいかなるものなのだろうか。纖毛虫と人間とは同じ自然の構成員であるとはいつても、それが同じ世界に生きていることを意味するものだろうか。ということですが。例えば纖毛虫の中に、ハルテリア・グランディラという体長30μほどの生物がいます。少し紡錘形をしていて、前端口の右縁には小膜が、左縁には十数本の剛毛列があつて、緑藻や珪藻の中に停止していたかと思うと、パツと目にもとまらぬ速さで視界から消えてしまいます。この恐るべき運動の（といつてもミクロの世界ですから大したことはないといつてしまえばそれまでですが）推進力は、やはり纖毛が動くことによつて成立するのですが、この纖毛の運動の時間的単位は一秒の数百分の一、或いは数千分の一というものであらうと思われまゝ。つまり、ハルテリアにとつて、自己の行動に伴う時間的単位は、 10^{-10} 、というものであり、一秒という時間は人間の数

日或いは数週にも相当するかもしれせん。従つてハルテリアと人間とは時間的観点からすると、極めて異質の世界に住んでゐるといえるでしょう。しかしこれぐらいのずれはまだいい方で、例えば現代物理学の基本的部分をなしている素粒子の世界においては、その成滅時間の単位は 10^{-10} 、 10^{-21} 秒というものであつて、この世界ではミュー中間子の 10^{-10} 秒という存在時間は極めて長いと言わなければなりません。最近話題になつてゐる円生粒子の寿命は百兆分の一秒（ 10^{-15} 秒）、 π （中性パイ中間子）は 10^{-14} 、 10^{-15} 秒で崩壊することが知られてゐます。こうなると素粒子という物質（これがどのような物質なのか、つまり自然界における究極の実体なのかどうかは大いに疑問らしいのですが）の生成消滅する時間は、私たちにとつては一瞬ともいえぬ時間であり、そんなものは私たちの日常生活とは全く縁のない世界ということになります。それは一回のまたたきどころか、一つの心臓の周期、いや赤血球が血管の中を移動する単位、電解質の物質交換に要する時間の単位よりもはるかに小さい時間といわねばなりません。しかし、一方では考へるまでもなく、それらの微小空間と微小時間の中で生成消滅する最小単位（？）の物質が、自然界の全ての存在に充満してその存在を決定づけてゐるのですから、何とも摩可不

思議といわざるを得ません。

このようにみえてくると、自然界の出来事を理解するには、もう少し時間の概念を掘り上げて見る必要があるようです。A・N・ホワイトヘッドは19世紀から今世紀にかけて活躍した偉大な哲学者、数学者の一人ですが、彼によると、いかなる自然も一瞬（0時間）のうちには存在しないのだといいます。あらゆる運動は時間を必要とし、あらゆる自然的機能は運動形態であつて、あらゆる運動は時間を必要とします。しかし自然界のさまざまな存在物には、夫々のものが存在するのに必要な時間の系列が必要なのです。

例えばミウ中問子にとつては16-10秒という極微時間の単位の中に於いて始めて存在し得るし、それより短かくては存在することができません。15-10秒という時間はπの全存在、つまりその生成と消滅に十分な時間ですがミウ中問子には全く問題にならないほどの短時間なのです。ところが一方、私たちの目に写る森や山を例にとつてみると、その生成消滅の時間的単位は、十年、百年時には数万年というものであつて、それだけの時間をかけなければ、木、或いは山という存在物の全体像を把握するには十分ではありません。ある人が、梨の木の芽が土から顔を出したその瞬間を観察したからといって、そ

れが梨の木を知つたことにはならないし、又、梨の実をつけた時、その時の姿が梨の木そのものを現わしていると思うのは間違つてゐるでしょう。

では、一方、宇宙はどうかというと、これはとてつもない存在？であつて、現在の宇宙物理学では、その誕生は百五十億年ぐらい前と推定していますが、確かなことは分つていません。しかしともかく、宇宙全体には銀河系同様のものが数十億、数百億もあるというし、それらを包む宇宙は果てしもなく拡散してゐるのだといわれています。（少くとも今のところは）又、その時間的単位は億年という単位で推量しなければならぬこともはつきりしています。太陽が生れてから、太陽は銀河系を20回ほどしか回転しておらず、あと20回も回転すると消滅してしまふというのですから、人間の寿命にあてはめると、一年が数億年に相当するということになるでしょう。

さて、このように考えてみると、私たち人間は、自然の存在物を、それが私たちに見えるように（その感覚に捉えられる限りに於いて）見てゐるのであつて、それがあるがままに見てゐるのではない、という事です。人間は人間の存在し得る時間を空間の中で、その感覚器に写る表象を捉えてゐるに過ぎないのであつて、対象物の実像を捉えてゐるわけではありません。アインシュタイン

「私の考えでは『実在する外部世界』というものが設定されてくる第一段は、物体という概念およびいろいろな種類の物体という概念の形成にあると思います。……論理的に考えれば、この概念はそれがよりどころにした感覚の全体と同一のものではありません。むしろそれは人間の心の自由な創造物です。他方では、この概念のもつ意味、ならびにその妥当性を根拠づけているものは、われわれがそれによつて連想する感覚の全体であり、それ以外の何ものでもありません。」と述べています。

至つては50000150000サイクル/秒の音が取
 取可能とされています。そして、これは単に振動数によ
 る異りに過ぎず、質的には蟻と人間の聞いている音は全
 く異質のものだと考えられます。即ち、自然界に生存す
 る百数十万種の生物は、夫々の感覚器で夫々の音を聞き
 分け、夫々異なつた意味づけをしているのであつて、人
 間はその中の実に僅かの分野の音を聞いているに過ぎま
 せん。では音そのものには実体も形相もなく、ただ数百
 万種の別々の音があるのかというと、そうではないよう
 です。(いやそうなのだ、という説は、アリストテレス
 以来連綿と続いている哲学思想ですが。) コリングウツ
 ドは「自然の観念」の中でこのことを実に全くうまい方
 法で説明しています。音というのは、物質ではなくて、
 形相なのだが、それは丁度、

$$(x+y)^2 = x^2 + 2xy + y^2$$
 という恒等式が $x=2$
 $y=3$ の時も $x=5$ $y=8$ の時も全く同じ恒等式である
 ことに驚しいということです。
 つまり音の場合、 x や y は夫々の生物の聴力器官の異な
 りを現してゐる。このことによつて答は必然的に異つて
 くるのですが、音そのものの持つてゐる形相は変化しな
 のです。つまりある形相(この場合は音)が存在する
 ためには何らかの物質の中で存在しなければなりません

$$(x+y)^2 = x^2 + 2xy + y^2 \quad \text{この恒等式が } x=2$$

$y=3$ の時も $x=5$ $y=8$ の時も全く同じ恒等式であることに等しいということです。

つまり音の場合、 x や y は夫々の生物の聴力器官の異なりを現している。このことによつて答は必然的に異つてくるのですが、音そのものの持つてゐる形相は変化しないのです。つまりある形相（この場合は音）が存在するために何らかの物質の中で存在しなければなりません。

が、しかしどんな物質の中で存在するにしろ、同じ形相であるにはちがいないのです。(このことについて、壮子が齊物論篇の中で地籟という言葉で面白い議論を展開していますが、紙面の都合で紹介は次回に回します。)

このように考えてみると、私たちは私たちの周囲で生起する様々な自然界の現象について、よしの髄から蒼蒼たる天空を観察しているにすぎないということに、思い至らざるを得ません。そしてそのような人間が、自然の中に生き、自然を一方では破壊し、一方では守ろうとする行為がどのようなことを意味するのか、それを改めて感えざるを得なくなるでしょう。というのも、鳥やミジンコやゾウリ虫、その他の無数の生物は、夫々の時間、空間の中で生きているのであって、人間はそれとは別の時、空に生きる存在であるに過ぎず、人間の価値判断の世界からは全く無関係の住人なのです。

例えば鳥を殺すのは自然保護に反する行為ですが、しかしそれは自然界の存在物のうちの、鳥と人間とに焦点を合せているにすぎないのであって、バクテリア、繊毛虫などからすると、鳥が射落されて、鉄砲射ちに見つからず、水の中で腐敗することは、恐らくは彼らにとって実に観望すべき事態なのです。川の汚染は水生昆虫や魚にとつてはいやな現象ですが、つりがね虫や龍虫、カビ

類などにはまたとない天国にちがいありません。

従つて私たちはひとりよがりになつてはいけなくてしょう。鳥を守るということが自然を愛することと同義ではないし、又人間が鳥を保護するとしているその行為自体、果してどれほどのことを鳥たちに意味しているのか人間には到底判断出来はしないのです。人間は所詮人間であつて、人間の五官を通じてしか自然を把握することは出来ないであり、またそこから生み出された価値判断もつまりは人間の間にしか通用しないものなのです。

さて、このへんでもとの主題にもどりましょう。いつたい私たち人間と無数の生物、無生物を包含する自然とはいつたい何なのでしょうか。それは死んだ物質と、その物質の摩可不思議な結合によつて生み出された生物群の入り混つた渾とんとした諸断片の集合体であるのでしょうか。それとも自然を超越した超自然的な存在者によつて、自然はかくあるようにあるものでしょうか。いや、そのような超越者はないにしろ、自然の中に内在する何らかの力が、自然をかくあらしめ、そこに秩序を生み配列を形成しているのでしょうか。

このような疑問には現代の如何なる科学者、哲学者も答えることは出来ません。いやそれどころか、私たちが現実を目に触れる日常的な外的存在物を、どうしてその

よりなものとして認識できるのかという、そんな基本的問題ですら分っていないのです。アインシュタインはこれについて前述の本の中で次のように述べています。

『われわれの感官体験の全体が、思考（すなわち概念の操作およびそれらの間に一定の機能的関係を作り出し、かつ利用すること、更にこれらの概念に感官体験を対応させること）という手段によって秩序立ったものにするということが可能であるようなものになつてゐるということは、まぎれもない事実なのですが、この事実については、われわれはただ驚異の念を感じるばかりですが、しかしそれはわれわれが理解することは決しないであろうという事実なのです。』世界の永遠の神秘はその了解可能性である。』といつてよいかもしれません。この了解可能ということがなければ、実在する外界という設定も無意味なものになるだろうとは、カントの到達した偉大な認識の一つです。』

無限大の世界から無限小の世界へ。この中に生起する無限の変化に豊んだ現象とその神秘的な運動を考えたと私たちは、今、ここに居る、ということの不思議さに、改めて慄然とせざるを得ません。

自然に息づくさまざまな生物や物質に接するとき、その名を覚え、分類し、系統立ててゆくことは自然

を理解する上で不可欠の手段ではありますが、それは現代の科学者が、自然とは何か、という問を受けた時、

『どんなものが自然界に存在するか』という問題に転換してしまふやり方、それ以外の何ものでもありません。

コリングウッドは「現代人にとって自然という言葉が、集合名詞として自然的事物の総体的ないし総計的全体を意味している」と言っています。このことは、私たちが自然観察会と称して、野原に出、植物の名前や鳥の名を覚えたり、比対したりするやり方そのものです。しかしこのような方法のみでは自然とは何かという問には永久に答えることはできないでしょう。

自然を守るといふことが、いつたい何を意味するのか「桜川」10号の発刊を機会によくよく考えてみる必要があるようです。

1976.6.6

（土浦の自然を守る会会長）

霞ヶ浦の水質に関する資料を集めております。お借りしたものはコピーして責任をもつてお返ししますから、古いもの、新しいもの何でもありますたらお知らせ下さい。石沢、または奥井まで（21）〇一四七

編集後記

先日私は竹内知事と消費者との懇談会に出席しました。知事との話し合いのテーマの一つに合成洗剤追放がありました。

「家庭排水を考える会という結構な会を作られました。その後、どんな活動をされているのでしょうか。」

「エッ！何という会ですか、知らないですね。」

「ご存知ないのですか。」

あれは環境局がやっている会でして……と傍の人が説明します。消費者と環境局とは無縁なのでしょう。そして知事は県でやっていることを知らなくともよいのでしょうか。立派なポスターまで作っているのに……。

× × ×

「土」の特集をしたので柴原さんに原稿をお願いしましたが、経過報告にも出ているように、畑の移転で忙がしく書けないとのことでした。土作りの体験者としての記録をぜひ書いていただきたいと思っています。

私達が柴原さんと無農薬野菜の配布契約をしたわけは、無農薬の人々がともて無農薬が合わないといっている無

農薬の野菜作りに取組んでいる柴原さんと一緒に実験していくという気持ちからなのです。自分達だけが無農薬の野菜を食べたいからということではないのです。そのことをよく認識していただきたいと思います。

× × ×

霞ヶ浦の汚れるアオコの季節になりました。昔の湖を知っている古老のお話を掲載していきたいと思っています。

お知り合いの方がありましたらお知らせ下さい。また聞かれた話をご寄稿下さい。水郷への汽船も廃止になつてしまいました。船の方のお話なども聞きたいと思っています。土浦の町の昔話でも結構です。

× × ×

桜川十号発刊を記念して会員の自己紹介の頁を設けました。まだお寄せ下さらない方は次号にも掲載いたしますからご寄稿下さい。会員数も九十名を越しております。名簿ができておりますのでご入用の方は中沢までご連絡下さい。（電・〇二九八―二三―四九五九）なお郵便料値上げのためお送りしておりません。会費未納の方はご納入下さい。（年間千円）また入会ご希望の方は左記にお問い合わせ下さい。

市内桜町四―四 佐賀 純一（電21 0357）
市内中央町一―九 奥井登美子（電21 0147）

「桜川」第十号

発行日 昭和五十一年六月二十日

発行所 土浦の自然を守る会

編集人 奥井登美子

連絡先 土浦の自然を守る会

仮事務所（土浦市桜町）

電話 ②10357

印刷所 大石膳写堂

土浦市荒川沖町